

令和5年度
(2023年度)

教 育 計 画

滋賀県立総合保健専門学校
歯科衛生専門課程 歯科衛生学科

目 次

I	教育理念・目的・目標	1
1.	本校の教育理念	1
2.	歯科衛生学科教育理念	1
3.	歯科衛生学科教育目的	1
4.	歯科衛生学科教育目標	1
II	授業科目および時間数	2
III	教育進度表	4
IV	行事計画	5
V	教科内容解説	6
1.	基礎分野	7
2.	専門基礎分野	1 7
3.	専門分野	3 6
4.	選択必修分野	7 2

I. 教育理念・目的・目標

1. 本校の教育理念

生命の尊厳と人権の尊重を基盤に豊かな人間性を養い、保健医療従事者として基礎的な知識・技術と高い志を育み、人々の健康と福祉に貢献する人材を育成する。

2. 歯科衛生学科教育理念

豊かな人間性と確かな倫理観を基盤に、社会のニーズに応え保健医療福祉の分野を支える高い資質を持った歯科衛生士を育成する。

3. 歯科衛生学科教育目的

歯科衛生士として必要な基礎的知識および技術を教授し、社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

4. 歯科衛生学科教育目標

- (1) 豊かな心を持ち、口腔の健康をとおして人間の健康を考えることのできる能力を養う。
- (2) 歯科衛生士としての責任を自覚し、医療人としての倫理観を養う。
- (3) 歯科予防処置、歯科診療の補助及び歯科保健指導の知識技術を修得し歯科保健医療に応用展開できる能力を養う。
- (4) コミュニケーション能力を身につけ、保健医療福祉のチームの一員として活動できる協調性を養う。
- (5) 自らの目標を持ち、主体的に学習し続ける態度を養う。

Ⅱ. 授業科目及び授業時間数

授業科目			単位数および授業時間数						
			講義		実習		計		
			単位	時間	単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と社会生活の理解	心理学	1	30			1	30	
		社会学	1	30			1	30	
		芸術	1	15			1	15	
		化学	1	30			1	30	
		英語	1	30			1	30	
		教育学	1	30			1	30	
		国語表現法	1	30			1	30	
		倫理学	1	15			1	15	
		情報処理	2	45			2	45	
	計			10	255			10	255
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	解剖学(含む組織発生)	2	45			2	45	
		生理学	1	15			1	15	
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	1	30			1	30	
		歯牙解剖学(含む実習)	1	30			1	30	
		口腔生理学	1	30			1	30	
		口腔病理学	1	30			1	30	
		口腔生化学	1	15			1	15	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(含む全身疾患の病態生理)	2	45			2	45	
		薬理学(含む歯科薬理学)	2	45			2	45	
		微生物学(含む口腔微生物学)	2	45			2	45	
		栄養学(含む生化学)	1	30			1	30	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	口腔衛生学Ⅰ	1	30			1	30	
		口腔衛生学Ⅱ(含む公衆歯科衛生学)	1	30			1	30	
		総合医療論(含む医療と安全)	1	15			1	15	
		衛生統計学	1	15			1	15	
		公衆衛生学	1	30			1	30	
		歯科関係法規	1	15			1	15	
		社会保障	1	30			1	30	
	計			22	525			22	525
	専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	2	45			2	45
		歯・歯髄疾患論	保存修復学	1	30			1	30
			歯内療法学	1	30			1	30
歯周疾患論		歯周療法学	1	30			1	30	
咀嚼障害・咬合異常論		歯科補綴学	1	30			1	30	
		矯正歯科学	1	30			1	30	
顎口腔疾患論		口腔外科学	1	30			1	30	
		小児歯科学	1	30			1	30	
		障害者・高齢者歯科疾患論	1	30			1	30	

専門分野	口腔保健学	歯科予防処置論	歯科予防処置基礎	2	60			2	60	
			齲蝕予防処置	1	30			1	30	
			歯周予防処置Ⅰ	2	60			2	60	
			歯周予防処置Ⅱ	2	90			2	90	
			歯周予防処置Ⅲ	1	30			1	30	
		歯科保健指導論	歯科保健指導基礎	1	30			1	30	
			歯科保健指導Ⅰ	1	30			1	30	
			歯科保健指導Ⅱ	1	30			1	30	
			歯科保健指導Ⅲ	1	30			1	30	
			歯科保健指導Ⅳ(演習)	1	45			1	45	
			歯科保健指導Ⅴ(含む摂食機能訓練法)	1	30			1	30	
			栄養指導	1	30			1	30	
		歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	1	30			1	30	
			歯科診療補助論Ⅱ(演習)	1	45			1	45	
			歯科診療補助論Ⅲ(演習)	1	45			1	45	
			臨床検査	1	15			1	15	
			感染予防学	1	30			1	30	
			歯科放射線学	1	30			1	30	
			歯科材料学Ⅰ	1	30			1	30	
	歯科材料学Ⅱ		1	30			1	30		
	救急法(救急蘇生法)		1	30			1	30		
	臨床・臨地実習	臨床実習Ⅰ			1	45	1	45		
		臨床実習Ⅱ前期			3	135	3	135		
		臨床実習Ⅱ後期			3	135	3	135		
		臨床実習Ⅲ病院			1	45	1	45		
		臨床実習Ⅲ前期			3	135	3	135		
		臨床実習Ⅲ中期			3	135	3	135		
		臨床実習Ⅲ後期			3	135	3	135		
		臨地実習Ⅰ(対象理解)			2	90	2	90		
		臨地実習Ⅱ(対象別歯科保健教育)			2	90	2	90		
	計				34	1065	21	945	55	2010
	選択必修分野		看護概論	1	15			1	15	
			手話	1	15			1	15	
			カウンセリング	1	15			1	15	
		コミュニケーション論	1	15			1	15		
		介護技術	1	30			1	30		
		有病者歯科医療	1	30			1	30		
		研究	1	45			1	45		
計				7	165			7	165	
合計				73	2010	21	945	94	2955	

Ⅲ. 教育進度表

分類	教育内容	授業科目	時間数	単位	一年		二年		三年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と社会生活の理解	心理学	30	1	30					
		社会学	30	1		30				
		芸術	15	1		15				
		化学	30	1	30					
		英語	30	1		30				
		教育学	30	1		30				
		国語表現法	30	1	30					
		倫理学	15	1						15
情報処理	45	2	45							
基礎分野計			255	10	135	105	0	0	15	0
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く) の構造と機能	解剖学(含む組織発生)	45	2	45					
		生理学	15	1	15					
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	30	1	30					
		歯牙解剖学	30	1	30					
		口腔生理学	30	1		30				
		口腔病理学	30	1		30				
		口腔生化学	15	1		15				
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(含む全身疾患の病態生理)	45	2		45				
		薬理学(含む歯科薬理学)	45	2			45			
		微生物学(含む口腔微生物学)	45	2		45				
		栄養学(含む生化学)	30	1	30					
	歯・口腔の健康と予防に関わる 人間と社会のしくみ	口腔衛生学Ⅰ	30	1	30					
		口腔衛生学Ⅱ(含む公衆歯科衛生学)	30	1	30					
		総合医療論(含む医療と安全)	15	1	15					
		衛生統計学	15	1						15
		公衆衛生学	30	1		30				
歯科関係法規		15	1						15	
社会保障		30	1						30	
専門基礎分野計			525	22	225	195	45	0	60	0
歯科衛生士概論		歯科衛生士概論(含む歯科臨床概論)	45	2	45					
小計			45	2	45	0	0	0	0	0
臨床 歯科 医学	歯・歯髄疾患論	保存修復学	30	1			30			
		歯内療法学	30	1			30			
	歯周疾患論	歯周療法学	30	1		30				
		歯科補綴学	30	1			30			
	咀嚼障害・咬合異常論	矯正歯科学	30	1						30
		顎口腔疾患論	30	1			30			
小児歯科学	30	1			30					
障害者・高齢者歯科疾患論	30	1					30			
小計			240	8	0	30	150	30	30	0
専門 保健 学	歯科予防処置論	歯科予防処置基礎	60	2		60				
		齶蝕予防処置	30	1				30		
		歯周予防処置Ⅰ	60	2			60			
		歯周予防処置Ⅱ	90	2				90		
		歯周予防処置Ⅲ	30	1						30
	歯科保健指導論	歯科保健指導基礎	30	1	30					
		歯科保健指導Ⅰ	30	1		30				
		歯科保健指導Ⅱ	30	1			30			
		歯科保健指導Ⅲ	30	1			30			
		歯科保健指導Ⅳ(演習)	45	1				45		
		歯科保健指導Ⅴ(含む摂食機能訓練法)	30	1					30	
	栄養指導	30	1				30			
	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	30	1		30				
		歯科診療補助論Ⅱ(演習)	45	1			45			
歯科診療補助論Ⅲ(演習)		45	1			45				
臨床検査		15	1					15		
感染予防学		30	1	30						
歯科放射線学		30	1					30		
歯科材料学Ⅰ		30	1			30				
歯科材料学Ⅱ		30	1			30				
救急法(救急蘇生法)	30	1						30		
小計			780	24	60	120	270	240	90	0
臨床・臨地実習	臨床実習Ⅰ(診療所6日)	45	1	15	30					
	臨床実習Ⅱ前期(診療所17日)	135	3					135		
	臨床実習Ⅱ後期(診療所17日)	135	3					135		
	臨床実習Ⅲ病院(病院6日間)	45	1						45	
	臨床実習Ⅲ前期(診療所17日)	135	3						135	
	臨床実習Ⅲ中期(診療所17日)	135	3						135	
	臨床実習Ⅲ後期(診療所17日)	135	3						135	
	臨地実習Ⅰ(対象理解)保育所・高齢者福祉施設・養護学校	90	2			90				
	臨地実習Ⅱ(対象別歯科保健教育)母子・高齢者・障害者	90	2						45	
	小計	945	21	15	30	90	270	225	315	0
専門分野計			2010	55	120	180	510	540	345	315
選択 必修 分野	看護概論	15	1		15					
	手話	15	1		15					
	カウンセリング	15	1						15	
	コミュニケーション論	15	1	15						
	介護技術	30	1						30	
	有病者歯科医療	30	1						30	
	研究	45	1						45	
選択必修分野計			165	7	15	30	0	0	120	0
合計			2955	94	495	510	555	540	540	315

IV. 行事計画

	第1学年	第2学年	第3学年
4月	入学時オリエンテーション 入学時研修 健康診断 二学科合同交流会	始業 健康診断 二学科合同交流会	始業 健康診断 二学科合同交流会
5月			
6月	健康診断	健康診断	健康診断
7月	個人情報に関する研修会 大掃除 夏期休暇	個人情報に関する研修会 大掃除 夏期休暇	個人情報に関する研修会 就職ガイダンス 二学科学習交流会 大掃除 夏期休暇
8月	夏期休暇	夏期休暇	夏期休暇 始業
9月	始業	始業	
10月	防災訓練	防災訓練	
11月			
12月	校外学習 大掃除 冬期休暇	大掃除 冬期休暇	大掃除 冬期休暇
1月	始業	始業	始業
2月			卒業前特別講義
3月	学年末面接 モリタ工場見学 大掃除 春期休暇	学年末面接 松風工場見学 大掃除 春期休暇	卒業時面接 (歯科衛生士国家試験) 大掃除 卒業式

*行事等は、状況により変更することがあります。

V. 教育内容解説

基 礎 分 野

教育内容	授業科目	単位	時間数
科学的思考の基礎人 間と社会生活の理解	心理学	1	30
	社会学	1	30
	芸術	1	15
	化学	1	30
	英語	1	30
	教育学	1	30
	国語表現法	1	30
	倫理学	1	15
	情報処理	2	45
合 計		10	255

科目名	心理学		
学年	1年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	田中 暁生		
実務経験			
学習目標			
<p>心理学の方法論や知見を学ぶことで、人間の行動（「なぜ、そのように行動するのか？」）や考え（「なぜ、そのように考えるのか？」）を論理的かつ客観的に分析し、理解しようとする姿勢を身につけることが大きな目標である。そのために、心理学の諸領域の基礎知識を修得し、応用として、日常生活における自分自身および周囲の人たちの行動や考え方を、心理学の知見を参考にして見直せるようになることを各授業での学習目標としたい。</p>			
授業計画			
1	ガイダンス	…	心理学とはどのような学問か？
2	知覚	…	ものを見る仕組み、さまざまな知覚現象
3	記憶	…	記憶の種類とそのメカニズム
4	学習	…	学習の原理、古典的条件づけ、オペラント条件づけ
5	パーソナリティ	…	パーソナリティに関する理論、パーソナリティの測定
6	感情	…	感情に関する理論、認知と感情の関係
7	社会	…	対人認知、印象形成
8	発達	…	乳児期～児童期、ピアジェの理論、青年期～老年期
9	心の進化	…	認知・行動の系統発生と種間比較
授業形式			
<p>パワーポイントを用いた講義形式の授業を行う。また、各回の授業終了前に、その回の講義内容に関連した小課題に取り組んでもらう。</p>			
教科書・参考書			
<p>各回の授業開始時に、必要な講義資料を配布する。教科書はとくに指定しないが、適宜、授業中に参考文献を紹介する。</p>			
評価の方法			
<p>授業態度・小課題（50%）、試験（50%）。 詳細は、初回の授業時に説明する。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>心理学は、しばしば誤解されるような「他人の心を読みとる術」ではなく、ヒト（およびその他の動物）の心と行動を科学的方法によって理解しようと試みる学問である。したがって、心理学を学んでも他人の心を読めるようになるわけではないが、自分自身の心や他人の行動を理解したり、受け入れたりする際の客観的な判断基準を得ることはできる。ただし、その基準を正しく使えるようになるためには、ただ単に心理学の知識を学ぶだけではなく、それらの知識を日常の場面でのどのように役立てることができるかを自分で考えながら授業に参加することが必要である。</p>			

科目名	社会学		
学年	1年・後期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	玉本 拓郎		
実務経験			
学習目標			
<p>1. 社会学成立の背景、発展を学ぶ事により、社会学独自の問題設定について理解する。</p> <p>2. 社会の中で生きているということが、どのような事態なのか社会学の用語を使って説明できるようになる。</p> <p>3. 自分の日常生活を振り返り、多様な人間関係に影響されているということを自覚できるようになる。</p>			
授業計画			
1	社会学という学問（社会学ガイダンス含む）		
2	社会学説史		
3	社会化と人間形成		
4	逸脱と多様性		
5	ジェンダーと家族		
6	メディア		
7	社会学と医療		
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
<p>テキスト 指定なし</p> <p>参考書 講義の中で適宜紹介する</p>			
評価の方法			
試験			
学生へのメッセージ			
<p>社会学で重要となるのは、「当たり前にある事は何か」に目を向ける事と、自分の経験を参考に解釈＝考える事の2つです。</p> <p>普段から新聞を読み何が起きているか理解＝考える事をしてほしい。</p>			

科目名	芸術		
学年	1年・後期		
単 位	1単位	時 間 数	15時間
担当教員名	井上 道代		
実務経験			
学習目標			
創作や身体表現をすることにより、豊かな感性を育む。			
授業計画			
1～7	身体の開放とリフレッシュ 自分の体を知ろう バランス・歩き方 筋肉と筋の伸縮 (陶芸教室)		
授業形式			
演習			
教科書・参考書			
評価の方法			
出席状況 取り組み姿勢 実技試験			
学生へのメッセージ			

科目名	化学		
学年	1年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	高橋 知子		
実務経験			
学習目標			
<p>専門分野で取り扱う化学物質は数多く、また技術の進歩に伴って、日々新しい素材や薬品が開発されています。これらの化学的性質を理解し、適切かつ安全に使用するためには、基礎的な知識をもとにして、新たな知識を自ら取り入れて消化し、専門分野で役立てていく力が必要となります。本講義では、基礎的な化学知識を、歯科材料や生体成分、食品・栄養の分野と密に関連させて理解を進めていくことにより、化学への興味を喚起し、自ら継続して学んでいくための土台を作ることを目指しています。</p>			
授業計画			
1	化学の基礎 1 ー空気を調べる		
2	化学の基礎 2 ー水を調べる		
3	化学の基礎 3 ー酸と塩基、酸化と還元		
4	無機歯科材料の化学 (無機範囲 小テスト)		
5	有機化学の基礎		
6	脂質・糖質・タンパク質 ー人体の構成成分		
7	有機歯科材料の化学 (有機範囲 小テスト)		
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
<p>参考書：コ・メディカル化学 医療・看護系のための基礎化学 最新歯科衛生士教本「化学」 教科書は特に定めず、授業中に必要な資料を配布する。</p>			
評価の方法			
<p>筆記試験 授業中に行う小テスト (平常点)</p>			
学生へのメッセージ			
<p>化学は難しい、苦手だという意識がある人やこれまで化学をあまり学んでこなかった人も興味を持って取り組めるように、身近にあるさまざまな話題も取り入れながら授業を進めます。苦手意識を克服して、将来の専門分野に役立てて欲しいと思います。</p>			

Course: English for Dental Hygienists.		
Class: 1年・後期	Hours: 30 total, grouped into 15 class sessions	
Instructor: Michael Pavoni	実務経験	
The purpose of this class is to prepare students to communicate in English, as working dental hygienists, with English-speaking patients. The course will focus on (1) relevant conversations between dental hygienists and patients in a number of different real-life dental situations as found in the textbook, and (2) exercises & activities to help them get comfortable communicating with English speakers. All activities will be to improve speaking, listening, question-asking and pronunciation skills to help students use and incorporate the technical conversations and vocabulary from the textbook.		
Class	Main topic and functions	Notes
1	Course introduction and overview. Explanation and examination of the textbook. Interactive game: asking for, giving and receiving items.	Q&A picture flash cards
2-5	Phone Conversation #1 (Unit 1): Making an Appointment. Phone Conversation #2 (Unit 2): Requests for Medicine. Phone Conversation #3 (Unit 3): Emergency Appointments. "This is Me": Self-introduction worksheet and speaking activity. "Repetitions": Quick actors' connection-building exercise. (NOTE: Following general structure to be used, in various ways, for all conversations from textbook.) Use of Japanese translation in back of text for general comprehension. Listening to the CD audio version of conversation; choral repetition; native pronunciation, intonation and syllable stress. "Idea Group" sentence breakdown system for comprehension and proper spoken delivery. Various pair work exercises, eye-contact communication sentence couplets, round-robin activities, mini-performances and performances of conversation in front of the class. Relevant vocabulary and conversation-based listening exercises.	Self-introduction worksheet; Q&A
6	Vocabulary-building and review exercise: student-created original crossword puzzle using target vocabulary from the textbook. Conversation #4 (Unit 4): Japanese National Health Insurance.	Vocabulary cross-word #1.
7	Conversation #4 performance in small groups and in front of class. Conversation #5 (Unit 5): Asking Patient to Describe Symptoms. (Part I and II) "STARE" Q & A memory game and question-building activity.	STARE picture question cards.
8-9	Conversation #6 (Unit 6): Asking the Medical History of Patient. "Idea Groups" workshop: Analyzing long, complex sentences; breaking them into small, idea-based sections.	
10	Conversation #7 (Unit 9): Why Do I Need a Cleaning?	Vocab builder #2: Word Scramble
11-12	Conversation #8 (Provided by Instructor): Greeting the Patient, Bringing Patient to the Dental Chair, Performing the Cleaning, Finishing. Mini workshop: The Dental Chair. Simple English phrases to alert patient before moving the chair, etc.	
13	Final Practical Performance: Students perform Conversation #8 in groups of 3 in Room A, using actual dentist chairs and equipment. Students need to create their own small clinic space, entrance from street, waiting area in the small space surrounding each chair. Students are encouraged to make the experience as life-like as possible. Small details, gestures actions and native English phrases are to be incorporated into successful performances.	
14	Conversation #9 (Unit 10) Informed Consent. Workshop: Giving basic Brushing Instructions and Flossing Instructions in English.	
15	Total Physical Response activity & game. Students perform basic tasks using high-frequency verbs (pick up, put down, take, give, put in, take out, open, close, put ___ on/in ___.) Test Review worksheet and discussion.	TPR actions. Flash cards or drawings on balackboard
Textbook: 歯科英語 (Shikaeiseigaku-series) Ishiyaku Publishers, Inc. 2022		
Supplemental materials to be provided by instructor throughout the course to include: self-introduction worksheets, interactive cards, Q&A cards, crossword templates, vocabulary-building prints and worksheets, supplemental conversations pertaining to the dental clinic.		
To the students: This class is fun, refreshing and active. We work together in small groups with friends and classmates, performing conversations, playing games, asking questions, doing exercises, acting out gestures and even drawing! You will feel much more comfortable speaking English--both in your dental hygienist job and in everyday conversation--and I think have a lot of fun. Relax, do your best and enjoy!		

科目名	教育学																
学年	1年・後期																
単位	1単位	時間数	30時間														
担当教員名	中島 千恵																
実務経験																	
学習目標	<p>教育や我々が学ぶことの基本的な意味や本質を理解し、それに基づき教育の現状を分析するとともに、教育のあり方や教育的人間関係について理解を深めることを目的とする。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>教育や学びの諸相を考え、教育や学びについての議論の対象を明らかにする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 教育や学びが我々にとってなぜ必要なのかを考える。 (1)人間の基本的生と教育・学習 (2)人間のよりよい生と教育・学習 (3)社会と教育 </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教育とは何か。教育の本質をさぐる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> 教育についての考え方を何人かの教育論者からさぐる。 ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイ </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教育のしくみを考える。(教育制度、教育法規)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教育の基本をふまえた、教育方法の原則を考える。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>教育者や指導者のあり方や役割を考える。</td> </tr> </table>			1	教育や学びの諸相を考え、教育や学びについての議論の対象を明らかにする。	2	教育や学びが我々にとってなぜ必要なのかを考える。 (1)人間の基本的生と教育・学習 (2)人間のよりよい生と教育・学習 (3)社会と教育	3	教育とは何か。教育の本質をさぐる。	4	教育についての考え方を何人かの教育論者からさぐる。 ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイ	5	教育のしくみを考える。(教育制度、教育法規)	6	教育の基本をふまえた、教育方法の原則を考える。	7	教育者や指導者のあり方や役割を考える。
1	教育や学びの諸相を考え、教育や学びについての議論の対象を明らかにする。																
2	教育や学びが我々にとってなぜ必要なのかを考える。 (1)人間の基本的生と教育・学習 (2)人間のよりよい生と教育・学習 (3)社会と教育																
3	教育とは何か。教育の本質をさぐる。																
4	教育についての考え方を何人かの教育論者からさぐる。 ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイ																
5	教育のしくみを考える。(教育制度、教育法規)																
6	教育の基本をふまえた、教育方法の原則を考える。																
7	教育者や指導者のあり方や役割を考える。																
授業形式	講義および討論																
教科書・参考書	テキスト『改定 未来に生きる教育学』田中享胤、越後哲治、中島千恵 編著 あいり出版																
評価の方法	最終レポートによる																
学生へのメッセージ	<p>教育とは我々の生活や生きていることからかけ離れたものではなく、我々自身の毎日の生と密接にかかわるものであることを考え、自らの問題として聞いてほしい。</p>																

科目名	国語表現法		
学年	1年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	新稲 法子		
実務経験			
学習目標			
<p>記録・説明・報告などの文章は、正確で具体的な表現を用いて読む相手に誤解を与えないことが重要である。仕事で用いる文章をわかりやすく書く技術を身に付ける。</p>			
授業計画			
1	具体的に伝える（1）		
2	事実と意見という考え方を理解する（1）		
3	段落に分けて書く		
4	トピックセンテンスを使って書く		
5	引用して書く		
6	構成を考えて書く（1）		
7	文章を要約する		
8	メールを書く		
9	具体的に伝える（2）		
10	段落を分け、トピックセンテンスを使って書く		
11	事実と意見という考え方を理解する（2）		
12	読む人を意識して書く		
13	自己アピール文を書く		
14	構成を考えて書く（2）		
授業形式			
<p>講義・演習 適宜ブレインストーミングを行う。</p>			
教科書・参考書			
<p>テキスト 新稲法子『伝える伝わる文章表現』ケイエスティープロダクション 2021 参考書 木下 是雄 著 『理科系の作文技術』 中公新書 624 中央公論新社 1981</p>			
評価の方法			
<p>筆記試験 授業ごとの課題 40 % 最終試験（筆記試験） 60 %</p>			
学生へのメッセージ			
<p>この授業では、高校までの国語とは異なり、毎回、文章を書くトレーニングをします。わかりやすい文章を書く技術を身に付けるため、説明を聞くだけでなく、実際に手を動かして書きましょう。</p>			

科目名	倫理学																
学年	3年・前期																
単位	1単位	時間数	15時間														
担当教員名	シン・ジュヒョン																
実務経験																	
学習目標	<p>技術の発展は、人びとに新しい選択肢を与えて、さまざまな面でコントロールの自由を促進する。それは一方で人びとにとって恩恵である。しかし、選択肢の拡大によって解放される欲望は良いものばかりであるとは言えない。とくに人間の「幸福」に直接かかわる医療の場では、技術の進展によって様々な問題が起こりつつある。本講義では、医療の場で生ずる倫理的な問題を通して、人間の選択の自由が拡大することの両面性について考え、人間の「幸福」の意味を考える。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>「イントロダクション」(倫理学とは何か)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「生命倫理学の成立とインフォームド・コンセント」</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「同意なき手術、優生思想」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「生と死をめぐる問題①」(QOL、SOL)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「生と死をめぐる問題②」(「生きる権利」、「生きられる権利」)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、出生前診断」</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「デジタル時代における医療と倫理の諸問題」(医療プロフェッション、医療者と患者のコミュニケーション、プライバシーの権利)</td> </tr> </table>			1	「イントロダクション」(倫理学とは何か)	2	「生命倫理学の成立とインフォームド・コンセント」	3	「同意なき手術、優生思想」	4	「生と死をめぐる問題①」(QOL、SOL)	5	「生と死をめぐる問題②」(「生きる権利」、「生きられる権利」)	6	「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、出生前診断」	7	「デジタル時代における医療と倫理の諸問題」(医療プロフェッション、医療者と患者のコミュニケーション、プライバシーの権利)
1	「イントロダクション」(倫理学とは何か)																
2	「生命倫理学の成立とインフォームド・コンセント」																
3	「同意なき手術、優生思想」																
4	「生と死をめぐる問題①」(QOL、SOL)																
5	「生と死をめぐる問題②」(「生きる権利」、「生きられる権利」)																
6	「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、出生前診断」																
7	「デジタル時代における医療と倫理の諸問題」(医療プロフェッション、医療者と患者のコミュニケーション、プライバシーの権利)																
授業形式	講義																
教科書・参考書	授業中にプリント資料を配布する																
評価の方法	<p>授業への参加意欲(コミュニケーション・ペーパー、ディスカッション参加など)</p> <p>期末テスト</p>																
学生へのメッセージ	<p>今後、医療従事者として人々の「幸福」に直接関わる皆さんに、医療の場で生ずる倫理的な問題についての知識と考え方を学ぶことを通して、あらためて「幸福」や「良い」とはどういうことかについて深く立ち止まって考える機会になれば、と思います。</p>																

科目名	情報処理		
学年	1年・前期		
単 位	2単位	時 間 数	45時間
担当教員名	土谷 亮		
実務経験			
学習目標			
<p>勉学（レポート作成など）や社会で必要になるコンピューターの基礎知識と技能を修得することを目標とする。</p>			
授業計画			
	下記の項目を数時間ずつに分けて演習する。		
1	コンピューターの基礎知識と基本操作、タイピング練習		
2	ワープロソフト（Word）の使い方：文字入力、フォント（文字の形、大きさ、種類）などの体裁の整え方、表の作成など		
3	表計算ソフト（Excel）の使い方：文字入力、フォント（文字の形、大きさ、種類）などの体裁の整え方、表計算機能の使い方、グラフ作成など		
4	インターネットの使い方：インターネットの構造、検索エンジンの使い方、セキュリティ（ウイルス対策など）、倫理問題など		
5	パワーポイントによる資料作成・プレゼンテーション		
授業形式			
パソコンを使った演習			
教科書・参考書			
『30時間アカデミック Office2021 Windows11 対応』 実教出版			
評価の方法			
平常点、発表態度および授業中の演習結果を統合して評価する。			
学生へのメッセージ			

専 門 基 礎 分 野

教育内容	授業科目	単位	時間数
人体(歯・口腔を除く) の構造と機能	解剖学(含む組織発生)	2	45
	生理学	1	15
歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	1	30
	歯牙解剖学	1	30
	口腔生理学	1	30
	口腔病理学	1	30
	口腔生化学	1	15
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(含む全身疾患の病態生理)	2	45
	薬理学(含む歯科薬理学)	2	45
	微生物学(含む口腔微生物学)	2	45
	栄養学(含む生化学)	1	30
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	口腔衛生学Ⅰ	1	30
	口腔衛生学Ⅱ (含む公衆歯科衛生学)	1	30
	総合医療論(含む医療と安全)	1	15
	衛生統計学	1	15
	公衆衛生学	1	30
	歯科関係法規	1	15
	社会保障	1	30
合 計		22	525

科目名	解剖学（含む組織発生）		
学年	1年・前期		
単位	2単位	時間数	45時間
担当教員名	山田 悟史 渡邊 弘樹		
実務経験			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身の諸器官の名称、構造、機能を理解する。 2. 全身の諸器官が日常生活において果たす役割りや歯科・口腔とどのように関わっているのか、理解する。 3. 同種類の細胞の集合したものを組織といいその機能は細胞の性質により決定されることを理解する。 4. ヒトの発生、歯の発生の過程を理解する。 			
授業計画			
1	解剖学の概要		
2	骨格系		
3	筋系		
4	内臓学		
5	脈管学		
6	神経学		
7	感覚器		
8	細胞、上皮組織、結合組織、筋、軟骨組織		
9	骨組織、血管血液、神経組織		
10	エナメル質、象牙質、歯髄		
11	歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉）		
12	発生学（受精から胎児期まで）、顔面発生		
13	歯牙発生Ⅰ、Ⅱ		
14	口腔組織のまとめ		
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能1解剖学・組織発生学・生理学』 歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 配布プリント			
評価の方法			
筆記試験			
評価配分： 解剖学 65点 組織発生 35点			
学生へのメッセージ			
器官の名称を単に覚えるだけでなく、その機能について理解して欲しい。覚えることが多いので、できるだけ講義の中で整理しながら確認しましょう。この知識は医療従事者として必ず役立つものと思います。			

科目名	生理学																
学年	1年・前期																
単 位	1単位	時 間 数	15時間														
担当教員名	坂本 耕造																
実務経験																	
学習目標	<p>生体がもつ様々な機能（はたらき）が、どのような仕組みで行われるかを理解する。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>生理学とは、細胞</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>血液、循環</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>呼吸、筋</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>神経、感覚</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>消化と吸収、排泄</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>体温、内分泌</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>生殖、まとめ</td> </tr> </table>			1	生理学とは、細胞	2	血液、循環	3	呼吸、筋	4	神経、感覚	5	消化と吸収、排泄	6	体温、内分泌	7	生殖、まとめ
1	生理学とは、細胞																
2	血液、循環																
3	呼吸、筋																
4	神経、感覚																
5	消化と吸収、排泄																
6	体温、内分泌																
7	生殖、まとめ																
授業形式	講義																
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能1解剖学・組織発生学・生理学』</p>																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ																	

科目名	口腔解剖学																														
学年	1年・前期																														
単位	1単位	時間数	30時間																												
担当教員名	外部講師																														
実務経験																															
学習目標	口腔および口腔付近の形態・構造・機能を理解する。																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>口腔解剖学の意義</td> <td>口腔と周辺諸器の構造</td> <td>口腔前庭・口唇・頬・固有口腔・舌</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>頭蓋骨、顔面骨</td> <td colspan="2">(眼窩、鼻腔、上顎、口蓋)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>下顎骨、顎関節</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>頭頸部の筋系</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>頭頸部の脈管系</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>頭頸部の神経系</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>総復習、小テスト</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			1	口腔解剖学の意義	口腔と周辺諸器の構造	口腔前庭・口唇・頬・固有口腔・舌	2	頭蓋骨、顔面骨	(眼窩、鼻腔、上顎、口蓋)		3	下顎骨、顎関節			4	頭頸部の筋系			5	頭頸部の脈管系			6	頭頸部の神経系			7	総復習、小テスト		
1	口腔解剖学の意義	口腔と周辺諸器の構造	口腔前庭・口唇・頬・固有口腔・舌																												
2	頭蓋骨、顔面骨	(眼窩、鼻腔、上顎、口蓋)																													
3	下顎骨、顎関節																														
4	頭頸部の筋系																														
5	頭頸部の脈管系																														
6	頭頸部の神経系																														
7	総復習、小テスト																														
授業形式	講義																														
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』																														
評価の方法	筆記試験																														
学生へのメッセージ																															

科目名	歯牙解剖学																				
学年	1年・前期																				
単位	1単位	時間数	30時間																		
担当教員名	松島 恭彦																				
実務経験																					
学習目標	<p>1. 個々の正常な歯の形態・構造・機能について理解する。</p> <p>2. 歯の鑑別ができる。</p> <p>3. 乳歯と永久歯の違いを理解する。</p>																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>歯の形態概論</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>永久歯の形態学的特徴（切歯）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>永久歯の形態学的特徴（犬歯・小臼歯）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>永久歯の形態学的特徴（上顎大臼歯）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>永久歯の形態学的特徴（下顎大臼歯）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>乳歯の形態学的特徴</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>歯の異常、歯の萌出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>歯列と咬合</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>歯のスケッチ・歯の鑑別</td> </tr> </table>			1	歯の形態概論	2	永久歯の形態学的特徴（切歯）	3	永久歯の形態学的特徴（犬歯・小臼歯）	4	永久歯の形態学的特徴（上顎大臼歯）	5	永久歯の形態学的特徴（下顎大臼歯）	6	乳歯の形態学的特徴	7	歯の異常、歯の萌出	8	歯列と咬合	9	歯のスケッチ・歯の鑑別
1	歯の形態概論																				
2	永久歯の形態学的特徴（切歯）																				
3	永久歯の形態学的特徴（犬歯・小臼歯）																				
4	永久歯の形態学的特徴（上顎大臼歯）																				
5	永久歯の形態学的特徴（下顎大臼歯）																				
6	乳歯の形態学的特徴																				
7	歯の異常、歯の萌出																				
8	歯列と咬合																				
9	歯のスケッチ・歯の鑑別																				
授業形式	講義																				
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』</p>																				
評価の方法	筆記試験結果(70%)と実習提出物(10%)、小テスト(20%)																				
学生へのメッセージ	<p>歯牙解剖学は、歯の肉眼的形態と、それらの構造および機能を勉強する学問です。人の歯の形、解剖学的名称、形態の異常、かみ合わせ、加齢変化等について、特に歯科衛生士に重要だと思われることを中心に講義します。</p> <p>講義に加えて、歯のスケッチを行い、形態に対する理解を深めます。</p>																				

科目名	口腔生理学																				
学年	1年・後期																				
単位	1単位	時間数	30時間																		
担当教員名	金谷 恵大朗																				
実務経験																					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ、口腔生理学が必要なのか。 2. 口腔の生理を理解する。 3. 摂食行動の重要性を学習する。 4. 各種口腔機能と、口からからだの健康について学習する。 																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>口腔生理学とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>摂食行動の重要性</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歯と口腔の感覚</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>味覚と嗅覚</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>咬合と咀嚼・吸啜</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>嚥下と嘔吐</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発声</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>唾液</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>			1	口腔生理学とは	2	摂食行動の重要性	3	歯と口腔の感覚	4	味覚と嗅覚	5	咬合と咀嚼・吸啜	6	嚥下と嘔吐	7	発声	8	唾液	9	まとめ
1	口腔生理学とは																				
2	摂食行動の重要性																				
3	歯と口腔の感覚																				
4	味覚と嗅覚																				
5	咬合と咀嚼・吸啜																				
6	嚥下と嘔吐																				
7	発声																				
8	唾液																				
9	まとめ																				
授業形式	講義、小テスト																				
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 参考図書：摂食嚥下の機能解剖：阿部伸一著．医歯薬出版株式会社 歯のしくみ、口のしくみ：阿部伸一著．クインテッセンス出版株式会社																				
評価の方法	筆記試験																				
学生へのメッセージ	<p>ひとは口から食物を食べることにより生命を維持することができる。</p> <p>これからの超高齢者社会において、摂食行動は非常に重要なものであり、これを理解していないと低栄養予防や誤嚥性肺炎予防などの介護予防対策を理解することは難しい。</p> <p>そこで、口腔生理学を通して、食べ物が胃の中にまで到達するまでの過程を、解剖学的な知識とともにしっかりと把握することにより、実際の歯科治療や訪問歯科診療において、なぜ口腔生理学が必要かを理解できるようにわかりやすく授業をおこなう予定ですので、最後まで頑張って聞いてください。</p>																				

科目名	口腔病理学																
学年	1年・後期																
単位	1単位	時間数	30時間														
担当教員名	村井 崇人																
実務経験																	
学習目標	口腔領域の組織に発生する病変の原因、経過、転帰など病変の本態を理解する。																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>口腔病理学とは 歯の発育異常 歯の機械的および化学的損傷</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歯の付着物および沈着物 象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>う蝕 歯髄の病変</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歯周組織の病変</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>抜歯創の治癒 口腔粘膜の病変 エプーリス</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>口腔領域の奇形 顎骨の病変</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>口腔領域の嚢胞 口腔領域の腫瘍 口腔組織の加齢変化</td> </tr> </table>			1	口腔病理学とは 歯の発育異常 歯の機械的および化学的損傷	2	歯の付着物および沈着物 象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化	3	う蝕 歯髄の病変	4	歯周組織の病変	5	抜歯創の治癒 口腔粘膜の病変 エプーリス	6	口腔領域の奇形 顎骨の病変	7	口腔領域の嚢胞 口腔領域の腫瘍 口腔組織の加齢変化
1	口腔病理学とは 歯の発育異常 歯の機械的および化学的損傷																
2	歯の付着物および沈着物 象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化																
3	う蝕 歯髄の病変																
4	歯周組織の病変																
5	抜歯創の治癒 口腔粘膜の病変 エプーリス																
6	口腔領域の奇形 顎骨の病変																
7	口腔領域の嚢胞 口腔領域の腫瘍 口腔組織の加齢変化																
授業形式	講義																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ																	

科目名	口腔生化学																
学年	1年・後期																
単位	1単位	時間数	15時間														
担当教員名	鎌田 愛子																
実務経験																	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯と歯周組織の構造を理解し、その構成成分と機能を説明できる。 2. 硬組織の代謝機構を説明できる。 3. 唾液と歯の堆積物の特徴を理解し、う蝕と歯周疾患との関連性を説明できる。 																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>結合組織の組成とその特性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歯と歯周組織の有機成分と無機成分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>血清中のカルシウムとリン酸の濃度とその調節 歯と骨の石灰化の仕組み</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>唾液中の有機質と無機質の種類とその役割</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ペリクル、プラーク、歯石の成り立ち</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>う蝕と歯周疾患におけるプラークの関わり</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>砂糖と代用甘味料、フッ化物の応用 口臭と歯周疾患</td> </tr> </table>			1	結合組織の組成とその特性	2	歯と歯周組織の有機成分と無機成分	3	血清中のカルシウムとリン酸の濃度とその調節 歯と骨の石灰化の仕組み	4	唾液中の有機質と無機質の種類とその役割	5	ペリクル、プラーク、歯石の成り立ち	6	う蝕と歯周疾患におけるプラークの関わり	7	砂糖と代用甘味料、フッ化物の応用 口臭と歯周疾患
1	結合組織の組成とその特性																
2	歯と歯周組織の有機成分と無機成分																
3	血清中のカルシウムとリン酸の濃度とその調節 歯と骨の石灰化の仕組み																
4	唾液中の有機質と無機質の種類とその役割																
5	ペリクル、プラーク、歯石の成り立ち																
6	う蝕と歯周疾患におけるプラークの関わり																
7	砂糖と代用甘味料、フッ化物の応用 口臭と歯周疾患																
授業形式	講義																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能2 栄養と代謝』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ	口腔生化学は決して暗記科目ではありません。常に、「歯科の臨床的事項をなぜか考える」という視点に立って理解を深めてほしい。																

科目名	病理学（含む全身疾患の病態生理）																				
学年	1年・後期																				
単位	2単位	時間数	45時間																		
担当教員名	田中 大典																				
実務経験																					
学習目標	<p>病理は疾患の宝庫といわれ、形態学的に病気の原因、仕組み、経過を明らかにすることで医療に役立てようとする学問です。</p> <p>病理学の概念と疾病の成り立ちについて学び、病変の本態を理解する。</p>																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>病理学の基本的概念、病因論、歴史的事項について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病理学的方法論Ⅰ（病院内病理部門の実際）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病理学的方法論Ⅱ（細胞・組織における各器官について）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>細胞傷害に対する細胞・組織の各適応現象（退行性病変、進行性病変、細胞【組織】の老化について）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>物質代謝障害（糖、蛋白質、脂質、核酸、色素、鉄、カルシウム等）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>遺伝性疾患と発生発達異常（遺伝子・染色体異常症、先天異常） 感染症（配布資料と説明）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>循環障害（全身、局所、リンパ液について）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>炎症と免疫（炎症の形態的分類と疾患、免疫反応と各疾患【アレルギー含む】）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>腫瘍（発生病理、分類、広がり、診断と治療、疫学【統計】）</td> </tr> </table>			1	病理学の基本的概念、病因論、歴史的事項について	2	病理学的方法論Ⅰ（病院内病理部門の実際）	3	病理学的方法論Ⅱ（細胞・組織における各器官について）	4	細胞傷害に対する細胞・組織の各適応現象（退行性病変、進行性病変、細胞【組織】の老化について）	5	物質代謝障害（糖、蛋白質、脂質、核酸、色素、鉄、カルシウム等）	6	遺伝性疾患と発生発達異常（遺伝子・染色体異常症、先天異常） 感染症（配布資料と説明）	7	循環障害（全身、局所、リンパ液について）	8	炎症と免疫（炎症の形態的分類と疾患、免疫反応と各疾患【アレルギー含む】）	9	腫瘍（発生病理、分類、広がり、診断と治療、疫学【統計】）
1	病理学の基本的概念、病因論、歴史的事項について																				
2	病理学的方法論Ⅰ（病院内病理部門の実際）																				
3	病理学的方法論Ⅱ（細胞・組織における各器官について）																				
4	細胞傷害に対する細胞・組織の各適応現象（退行性病変、進行性病変、細胞【組織】の老化について）																				
5	物質代謝障害（糖、蛋白質、脂質、核酸、色素、鉄、カルシウム等）																				
6	遺伝性疾患と発生発達異常（遺伝子・染色体異常症、先天異常） 感染症（配布資料と説明）																				
7	循環障害（全身、局所、リンパ液について）																				
8	炎症と免疫（炎症の形態的分類と疾患、免疫反応と各疾患【アレルギー含む】）																				
9	腫瘍（発生病理、分類、広がり、診断と治療、疫学【統計】）																				
授業形式	講義、小テスト																				
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学』																				
評価の方法	筆記試験																				
学生へのメッセージ	<p>病理学は歯科医学を含む医療に携わる者が共通に身につけなければならない基礎科目です。範囲も広いうえ、覚えることもたくさんあり難しいと思います。</p> <p>一つでも多くの知識を身につけ、将来様々な全身疾患を持った患者さんと接する際、必ず役に立ちますので、一緒に頑張って勉強しましょう。</p>																				

科目名	薬理学（含む歯科薬理学）																																
学年	2年・前期																																
単位	2単位	時間数	45時間																														
担当教員名	八木 孝和 中島 彰信																																
実務経験																																	
学習目標	<p>薬理、薬物の基礎知識を学び薬物について十分理解する。 歯科医療に用いられる薬物について基礎知識を学び十分理解する。</p>																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>薬物の作用、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品</td></tr> <tr><td>2</td><td>薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用、有害作用、医薬品を適用する際の注意</td></tr> <tr><td>3</td><td>ビタミンとホルモン、代謝性疾患治療薬（糖尿病、骨粗鬆症）</td></tr> <tr><td>4</td><td>末梢神経系に作用する薬物、局所麻酔薬</td></tr> <tr><td>5</td><td>中枢神経系に作用する薬物</td></tr> <tr><td>6</td><td>循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物</td></tr> <tr><td>7</td><td>呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、血液に作用する薬物</td></tr> <tr><td>8</td><td>炎症と薬、痛みと薬</td></tr> <tr><td>9</td><td>抗感染症薬、消毒に使用する薬</td></tr> <tr><td>10</td><td>免疫と薬、悪性腫瘍と薬</td></tr> <tr><td>11</td><td>う蝕予防に使用する薬剤</td></tr> <tr><td>12</td><td>歯内療法に使用する薬剤</td></tr> <tr><td>13</td><td>歯周疾患治療に使用する薬剤</td></tr> <tr><td>14</td><td>顎・口腔粘膜疾患に使用する薬剤</td></tr> <tr><td>15</td><td>漢方医学と薬物</td></tr> </table>			1	薬物の作用、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品	2	薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用、有害作用、医薬品を適用する際の注意	3	ビタミンとホルモン、代謝性疾患治療薬（糖尿病、骨粗鬆症）	4	末梢神経系に作用する薬物、局所麻酔薬	5	中枢神経系に作用する薬物	6	循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物	7	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、血液に作用する薬物	8	炎症と薬、痛みと薬	9	抗感染症薬、消毒に使用する薬	10	免疫と薬、悪性腫瘍と薬	11	う蝕予防に使用する薬剤	12	歯内療法に使用する薬剤	13	歯周疾患治療に使用する薬剤	14	顎・口腔粘膜疾患に使用する薬剤	15	漢方医学と薬物
1	薬物の作用、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品																																
2	薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用、有害作用、医薬品を適用する際の注意																																
3	ビタミンとホルモン、代謝性疾患治療薬（糖尿病、骨粗鬆症）																																
4	末梢神経系に作用する薬物、局所麻酔薬																																
5	中枢神経系に作用する薬物																																
6	循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物																																
7	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、血液に作用する薬物																																
8	炎症と薬、痛みと薬																																
9	抗感染症薬、消毒に使用する薬																																
10	免疫と薬、悪性腫瘍と薬																																
11	う蝕予防に使用する薬剤																																
12	歯内療法に使用する薬剤																																
13	歯周疾患治療に使用する薬剤																																
14	顎・口腔粘膜疾患に使用する薬剤																																
15	漢方医学と薬物																																
授業形式	講義																																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学』																																
評価の方法	筆記試験 評価配分：薬理学 55点 歯科薬理学 45点																																
学生へのメッセージ	<p>薬理学・歯科薬理学は、覚えなければならないことが多いため、初めは苦労しますが、ドラッグストアなどで目にするような薬剤名もあります。日頃の生活の中で関心を高めておくことと、受講前にテキストを熟読しておくこと、講義内容が分かりやすくなります。予習・復習を怠らぬようにお願いします。</p>																																

科目名	微生物学（含む口腔微生物学）		
学年	1年・後期		
単位	2単位	時間数	45時間
担当教員名	立脇 憲一		
実務経験			
学習目標	<p>各微生物（口腔微生物を含む）の病原性とその特徴、感染と感染症、宿主防御機構、化学療法、院内感染対策と滅菌・消毒などについて学び、微生物が生態に及ぼす影響と宿主防御機構、感染源・感染経路等への対応を理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の基礎、おもな病原微生物とその感染症 各種微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルスなど）の特徴と病原性を理解する 2. 感染と宿主防御機構 感染と感染症、感染に対する宿主防御機構、感染症の予防・診断・治療を理解する 3. 口腔内微生物とその感染症 口腔内微生物の種類と感染症起炎菌を理解する 4. 化学療法薬の作用機序と特徴を理解する 5. 院内感染対策と滅菌・消毒方法を理解する 		
授業形式	講義		
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学』 参考書（資料） 講義の中で適宜紹介</p>		
評価の方法	筆記試験		
学生へのメッセージ	<p>医療従事者として、微生物学の基礎知識を身につけて欲しい。疑問点があれば、その都度質問して欲しい。</p>		

科目名	栄養学（含む生化学）																								
学年	1年・前期																								
単位	1単位	時間数	30時間																						
担当教員名	酒井 純江																								
実務経験																									
学習目標	<p>1. 栄養指導をするにあたって、必要な知識を把握するために、まず生命現象を化学的に理解する。</p> <p>2. 栄養素として摂取したタンパク質、脂質、炭水化物についての代謝を理解する。</p> <p>3. 栄養の基礎知識を理解する。</p> <p>4. 食品の基礎知識を理解する。</p>																								
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1, 2</td> <td>生体の構成要素</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生体における化学反応</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>糖質と脂質の代謝－主要なエネルギー器質－</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>タンパク質とアミノ酸の代謝－多様な機能をもつ生体分子－</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>生体における恒常性の維持</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>栄養の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>栄養摂取基準</td> </tr> <tr> <td>9～11</td> <td>栄養素の働き</td> </tr> <tr> <td>12, 13</td> <td>食生活と健康</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>食べ物と健康</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>筆記試験</td> </tr> </table>			1, 2	生体の構成要素	3	生体における化学反応	4	糖質と脂質の代謝－主要なエネルギー器質－	5	タンパク質とアミノ酸の代謝－多様な機能をもつ生体分子－	6	生体における恒常性の維持	7	栄養の基礎知識	8	栄養摂取基準	9～11	栄養素の働き	12, 13	食生活と健康	14	食べ物と健康	15	筆記試験
1, 2	生体の構成要素																								
3	生体における化学反応																								
4	糖質と脂質の代謝－主要なエネルギー器質－																								
5	タンパク質とアミノ酸の代謝－多様な機能をもつ生体分子－																								
6	生体における恒常性の維持																								
7	栄養の基礎知識																								
8	栄養摂取基準																								
9～11	栄養素の働き																								
12, 13	食生活と健康																								
14	食べ物と健康																								
15	筆記試験																								
授業形式	講義・演習																								
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能2 栄養と代謝』</p> <p>参考書 講義の中で適宜紹介する</p>																								
評価の方法	レポートと筆記試験																								
学生へのメッセージ	医療従事者の自覚を持って、基礎的な知識を身につけて欲しい。																								

科目名	口腔衛生学 I																		
学年	1年・前期																		
単位	1単位	時間数	30時間																
担当教員名	柴田 稔																		
実務経験																			
学習目標	口腔衛生を十分理解し、歯科保健医療活動を実践する基礎とする。																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>口腔衛生学の意義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歯・口の健康</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>口腔の不潔、歯・口腔の付着物・沈着物</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>口腔清掃</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>歯科疾患の疫学</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>う蝕の予防</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フッ化物によるう蝕予防</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>歯周疾患の予防</td> </tr> </table>			1	口腔衛生学の意義	2	歯・口の健康	3	口腔の不潔、歯・口腔の付着物・沈着物	4	口腔清掃	5	歯科疾患の疫学	6	う蝕の予防	7	フッ化物によるう蝕予防	8	歯周疾患の予防
1	口腔衛生学の意義																		
2	歯・口の健康																		
3	口腔の不潔、歯・口腔の付着物・沈着物																		
4	口腔清掃																		
5	歯科疾患の疫学																		
6	う蝕の予防																		
7	フッ化物によるう蝕予防																		
8	歯周疾患の予防																		
授業形式	講義																		
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』																		
評価の方法	筆記試験																		
学生へのメッセージ	<p>歯科医療の基礎と臨床を包括して実践するガイドとなる分野であり、教本が基本となるのは当然であるが、それのみにとらわれていては理解が困難になる場合がある。まずは、「臨床ありき」であり、そのバックボーンとしての基礎を理解してもらいたい。</p>																		

科目名	口腔衛生学Ⅱ（含む公衆歯科衛生学）																
学年	1年・前期																
単位	1単位	時間数	30時間														
担当教員名	若栗 慎太郎																
実務経験																	
学習目標	<p>口腔衛生を十分理解し、歯科保健医療活動を実践する能力を養う。 公衆歯科衛生活動を進めていくための基本的な事項を学ぶ。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>健康の社会的決定要因</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域保健の概要と内容</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域保健の進め方について</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>健康づくり対策の流れ 母子歯科保健について</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学校保健と学校歯科保健 成人保健と成人歯科保健 老人保健の概要</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>疫学について 歯科疾患の疫学的特性</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>歯科口腔疾患について 分類・要因・予防について</td> </tr> </table>			1	健康の社会的決定要因	2	地域保健の概要と内容	3	地域保健の進め方について	4	健康づくり対策の流れ 母子歯科保健について	5	学校保健と学校歯科保健 成人保健と成人歯科保健 老人保健の概要	6	疫学について 歯科疾患の疫学的特性	7	歯科口腔疾患について 分類・要因・予防について
1	健康の社会的決定要因																
2	地域保健の概要と内容																
3	地域保健の進め方について																
4	健康づくり対策の流れ 母子歯科保健について																
5	学校保健と学校歯科保健 成人保健と成人歯科保健 老人保健の概要																
6	疫学について 歯科疾患の疫学的特性																
7	歯科口腔疾患について 分類・要因・予防について																
授業形式	講義・グループワーク・実習																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ																	

科目名	総合医療論（含む医療と安全）																
学年	1年・前期																
単位	1単位	時間数	15時間														
担当教員名	苗村 光廣																
実務経験																	
学習目標	<p>今日に至る医療の変遷を理解し、現代医療の社会的側面と倫理的側面を理解するとともに、医療安全等の現代医療の課題についても考察する。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>総合医療論を学ぶ意義や医療者に求められていることを学ぶ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療の歴史を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医療制度と保健活動を理解する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>現代医療の課題と先端医療技術について考察する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>臨床疫学、医療安全、医療管理を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>保健・医療・福祉の動きを理解する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「期待される医療者のあり方」</td> </tr> </table>			1	総合医療論を学ぶ意義や医療者に求められていることを学ぶ	2	医療の歴史を学ぶ	3	医療制度と保健活動を理解する	4	現代医療の課題と先端医療技術について考察する	5	臨床疫学、医療安全、医療管理を学ぶ	6	保健・医療・福祉の動きを理解する	7	「期待される医療者のあり方」
1	総合医療論を学ぶ意義や医療者に求められていることを学ぶ																
2	医療の歴史を学ぶ																
3	医療制度と保健活動を理解する																
4	現代医療の課題と先端医療技術について考察する																
5	臨床疫学、医療安全、医療管理を学ぶ																
6	保健・医療・福祉の動きを理解する																
7	「期待される医療者のあり方」																
授業形式	講義																
教科書・参考書	<p>教科書 医学書院『総合医療論』 参考書 『まんが医学の歴史』医学書院</p>																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ	<p>医学医療を生涯学んでいく方法、医学医療を実践する際に必要な医療人としての心構えと行動を学びます。</p> <p>講義は教科書中心にします。時間にゆとりがある前期のうちに通読してしまうとよいでしょう。</p>																

科目名	衛生統計学																
学年	3年・前期																
単位	1単位	時間数	15時間														
担当教員名	玉本 拓郎																
実務経験																	
学習目標	<p>1. 統計法の基本的知識</p> <p>2. 統計処理基本的方法</p> <p>3. 図表の作成方法</p> <p>4. 情報の保護と倫理 の習得を目指す。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>統計はどのようなものか</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疫学調査の進め方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>データ分析の手順</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>保健統計の方法その1：代表値（平均値など）と散布度（分散など）、集計表</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>保健統計の方法その2：相関、推定、検定、多変量解析</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>分析の実際：検定（t検定、カイ二乗検定）とデータの表現（図表の作成）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>情報の保護と倫理</td> </tr> </table>			1	統計はどのようなものか	2	疫学調査の進め方	3	データ分析の手順	4	保健統計の方法その1：代表値（平均値など）と散布度（分散など）、集計表	5	保健統計の方法その2：相関、推定、検定、多変量解析	6	分析の実際：検定（t検定、カイ二乗検定）とデータの表現（図表の作成）	7	情報の保護と倫理
1	統計はどのようなものか																
2	疫学調査の進め方																
3	データ分析の手順																
4	保健統計の方法その1：代表値（平均値など）と散布度（分散など）、集計表																
5	保健統計の方法その2：相関、推定、検定、多変量解析																
6	分析の実際：検定（t検定、カイ二乗検定）とデータの表現（図表の作成）																
7	情報の保護と倫理																
授業形式	講義と演習																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に係る人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ	<p>最近ではコンピュータにデータをいれると何が知らかの分析結果は出してくれる。しかし、どのような分析方法が最適かは示してくれない。どのようなデータであればどの分析法が正しいのか判断できるような知識は重要である。複雑な計算方法を覚えるというよりもそうした根本的な知識を獲得することを目差してほしい。</p>																

科目名	公衆衛生学																		
学年	1年・後期																		
単位	1単位	時間数	30時間																
担当教員名	林 賢一 梶本 まどか																		
実務経験																			
学習目標	<p>1. 社会情勢と健康との関連を理解する。</p> <p>2. 生活のあり方と疾病との関連を理解する。</p> <p>3. 環境と健康との関連を理解する。</p>																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>健康および予防医学の概念</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疫学</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人口の動向、統計、生命表</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>健康と環境</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>感染症の成り立ちと予防</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>食生活・食品衛生</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>産業保健・高齢者保健・精神保健</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国際保健</td> </tr> </table>			1	健康および予防医学の概念	2	疫学	3	人口の動向、統計、生命表	4	健康と環境	5	感染症の成り立ちと予防	6	食生活・食品衛生	7	産業保健・高齢者保健・精神保健	8	国際保健
1	健康および予防医学の概念																		
2	疫学																		
3	人口の動向、統計、生命表																		
4	健康と環境																		
5	感染症の成り立ちと予防																		
6	食生活・食品衛生																		
7	産業保健・高齢者保健・精神保健																		
8	国際保健																		
授業形式	講義																		
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1保健生態学』</p> <p>系統看護学講座『健康支援と社会保障制度3社会保障・社会福祉』</p>																		
評価の方法	筆記試験																		
学生へのメッセージ	<p>医療従事者として健康と社会の変化との関係を理解してほしい。</p> <p>また、医療従事者としての誇りを胸に、社会の変化にも目を向け、立派な社会人にもなってほしい。社会は貴女たちに期待し、卒業するのを待っている。勉強中にたくさん失敗して考えてほしい。本番で失敗しないために！</p>																		

科目名	歯科関係法規																
学年	3年・前期																
単 位	1単位	時 間 数	15時間														
担当教員名	大西 宏昭																
実務経験																	
学習目標	<p>保健医療従事者として必要な我が国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要とこれらに関する法規を学ぶ。</p> <p>法規に規定される歯科衛生士の身分・業務・責任について理解する。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>法制概論 衛生行政の概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歯科衛生士法（1）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歯科衛生士法（2）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歯科医師法 歯科技工士法 歯科口腔保健の推進に関する法律</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>その他医療関係職種に関する法律</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>医療法 健康増進法 地域保健法 母子保健法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>その他の関係法規</td> </tr> </table>			1	法制概論 衛生行政の概要	2	歯科衛生士法（1）	3	歯科衛生士法（2）	4	歯科医師法 歯科技工士法 歯科口腔保健の推進に関する法律	5	その他医療関係職種に関する法律	6	医療法 健康増進法 地域保健法 母子保健法	7	その他の関係法規
1	法制概論 衛生行政の概要																
2	歯科衛生士法（1）																
3	歯科衛生士法（2）																
4	歯科医師法 歯科技工士法 歯科口腔保健の推進に関する法律																
5	その他医療関係職種に関する法律																
6	医療法 健康増進法 地域保健法 母子保健法																
7	その他の関係法規																
授業形式	講義																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ	<p>歯科衛生士に関連する種々の法律の変化に関心を持ち、常に新しい情報のもとに業務を適正に行える力を養ってください。</p>																

科目名	社会保障		
学年	3年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	門 道子 新谷 文孝 井田 勝康		
実務経験			
学習目標	<p>社会保障の理念を理解し、社会の中で生活する人の生活空間に対する法律、政策を学ぶ。</p>		
授業計画			
1	社会保障の理念		
2	我が国の社会保障制度（年金制度保険制度）		
3	我が国の社会保障制度（医療保険制度）		
4	我が国の社会保障制度（介護保険制度）		
5	我が国の社会保障制度（労働者災害補償保険制度、雇用保険制度）		
6	社会福祉とは／ソーシャルワーカー実践と医療、看護		
7	社会福祉の諸制度と施策（生活保護法と施策）		
8	社会福祉の諸制度と施策（障害者基本法、身体障害者福祉法）		
9	社会福祉の諸制度と施策（知的障害者福祉法、精神保健福祉法）		
10	社会福祉の諸制度と施策（児童への施策）		
11	社会福祉の諸制度と施策（高齢者への施策）		
12	社会福祉行政のしくみ		
13	社会保障、社会福祉改革の動向		
14	歯科レセプトについて		
授業形式			
	講義		
教科書・参考書			
	系統看護学講座『健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉』		
評価の方法			
	筆記試験		
	評価配分：社会福祉 50点 社会保険 36点 レセプト 14点		
学生へのメッセージ			
	<p>大変難しい分野ですが、人間が生活し生命を維持していくための基盤となるものです。 また、ポスト・コロナにおける新たな全世代型社会保障と社会福祉の実践について考えていく。</p>		

專 門 分 野

教育内容		授業科目	単位	時間数
歯科衛生士概論		歯科衛生士概論	2	45
臨床 歯科 医学	歯・歯髄疾患論	保存修復学	1	30
		歯内療法学	1	30
	歯周疾患論	歯周療法学	1	30
	咀嚼障害・咬合異常論	歯科補綴学	1	30
		矯正歯科学	1	30
	顎口腔疾患論	口腔外科学	1	30
		小児歯科学	1	30
	障害者・高齢者歯科疾患論	1	30	
口腔 保健学	歯科予防処置論	歯科予防処置基礎	2	60
		齲蝕予防処置	1	30
		歯周予防処置Ⅰ	2	60
		歯周予防処置Ⅱ	2	90
		歯周予防処置Ⅲ	1	30
	歯科保健指導論	歯科保健指導基礎	1	30
		歯科保健指導Ⅰ	1	30
		歯科保健指導Ⅱ	1	30
		歯科保健指導Ⅲ	1	30
		歯科保健指導Ⅳ（演習）	1	45
		歯科保健指導Ⅴ（含む摂食機能訓練法）	1	30
		栄養指導	1	30
	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	1	30
		歯科診療補助論Ⅱ（演習）	1	45
		歯科診療補助論Ⅲ（演習）	1	45
		臨床検査	1	15
		感染予防学	1	30
		歯科放射線学	1	30
		歯科材料学Ⅰ	1	30
		歯科材料学Ⅱ	1	30
救急法（救急蘇生法）		1	30	
臨床・臨地実習	臨床実習Ⅰ	1	45	
	臨床実習Ⅱ前期	3	135	
	臨床実習Ⅱ後期	3	135	
	臨床実習Ⅲ病院	1	45	
	臨床実習Ⅲ前期	3	135	
	臨床実習Ⅲ中期	3	135	
	臨床実習Ⅲ後期	3	135	
	臨地実習Ⅰ（対象理解）	2	90	
	臨地実習Ⅱ（対象別歯科保健教育）	2	90	
合 計		55	2010	

科目名	歯科衛生士概論		
学年	1年・前期		
単位	2単位	時間数	45時間
担当教員名	小川 勝弘 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>歯科保健医療の概要を理解するとともに、歯科衛生士の業務、歴史を学び医療従事者として、また歯科衛生士としての心構えを持つ。</p>			
授業計画			
1	歯科医療の意義と歴史（歯科臨床概論）		
2	歯科医療機関の構成（歯科臨床概論）		
3	歯科疾患・診療の概要（歯科臨床概論）		
4	歯科診療補助の基礎（歯科臨床概論）		
5	歯科衛生学とは歯科衛生士の歴史（歯科衛生士概論）		
6	歯科衛生活動のための理論（歯科衛生士概論）		
7	コミュニケーショントレーニング（5分間スピーチ）（歯科衛生士概論）		
8	歯科衛生士と歯科衛生士法（歯科衛生士概論）		
9	歯科衛生士の業務（歯科衛生士概論）		
10	医療安全・リスクマネジメント（歯科衛生士概論）		
11	歯科衛生士と医療倫理（歯科衛生士概論）		
12	歯科衛生士の活動と組織 災害時口腔ケア（歯科衛生士概論）		
授業形式			
講義 演習			
教科書・参考書			
『歯科衛生士のための歯科臨床概論』 歯科衛生学シリーズ『歯科衛生学総論』			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
自分の選んだ職業、歯科衛生士について正しい知識でとらえ、今後の学習意欲の向上につなげてほしい。			

科目名	保存修復学																
学年	2年・前期																
単 位	1単位	時 間 数	30時間														
担当教員名	山内 哲義																
実務経験																	
学習目標	<p>保存修復学の目的、歯質の破壊と進行抑制、歯質の欠損・発育異常や変色などを生じた歯に対する歯冠形態・機能・審美性の回復・補正を行い、継発疾患の予防と咀嚼器官の保全をはかることを理解し、歯科衛生士として業務を行う上での適切な判断能力を養う。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>歯の保存療法の種類</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保存修復学の意味と概要</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アマルガム修復（コンポジットレジン修復の理解の為に）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コンポジットレジン修復</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>セメント修復・ラミネートベニア修復</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>鋳造修復</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>保存修復に用いられる器材</td> </tr> </table>			1	歯の保存療法の種類	2	保存修復学の意味と概要	3	アマルガム修復（コンポジットレジン修復の理解の為に）	4	コンポジットレジン修復	5	セメント修復・ラミネートベニア修復	6	鋳造修復	7	保存修復に用いられる器材
1	歯の保存療法の種類																
2	保存修復学の意味と概要																
3	アマルガム修復（コンポジットレジン修復の理解の為に）																
4	コンポジットレジン修復																
5	セメント修復・ラミネートベニア修復																
6	鋳造修復																
7	保存修復に用いられる器材																
授業形式	講義																
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『保存修復学・歯内療法学』 サブテキスト使用</p>																
評価の方法	筆記試験 小テスト																
学生へのメッセージ																	

科目名	歯内療法学		
学年	2年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	林 宏行		
実務経験			
学習目標			
<p>歯内療法学を学び、歯科医師との緊密な連携のもと、患者にとって最適と思える歯内治療を、歯科医師が適切かつ効率的に行えるように（「Four Handed Dentistry」）、歯科衛生士に必要とされる知識と適切な判断能力、技術および態度を養う。</p>			
授業計画			
1	歯内療法の概要		
2	歯髄の保存療法と除去療法		
3	歯髄の全部除去療法としての抜髄について		
4	根管治療（抜髄根管治療と感染根管治療）		
5	根管充填		
6	外科的歯内療法と歯の外傷		
7	歯内療法における安全対策		
8	歯内療法に用いられる器材と薬剤		
9	その他、トピックス的事項について		
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
<p>歯科衛生学シリーズ『保存修復学・歯内療法学』 新・歯科衛生士教育マニュアル『歯内治療』</p>			
評価の方法			
筆記試験			
100点満点で60点以上を合格と判定する。			
学生へのメッセージ			
<p>患者の気持ちがわかる歯科衛生士になって欲しい（患者の痛み・不安が理解できること）。 歯科医師が次に何をしようとしているか（歯科衛生士に何をしたいと思っているか）がわかる歯科衛生士になって欲しい。</p> <p>日本が超高齢化社会にあることから、どの年代の患者にも信頼され適切に対応できるコミュニケーション能力とインテリジェンスを身につけた歯科衛生士になって欲しい。</p>			

科目名	歯周療法学																
学年	1年・後期																
単 位	1単位	時 間 数	30時間														
担当教員名	眞岡 淳之																
実務経験																	
学習目標	<p>歯周療法学をまなび歯科衛生士業務を行う上での適切な判断能力を養う 症例を通して、歯周病に対する正しい知識を身に付ける</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>歯科衛生士と歯周治療 歯周組織の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歯周疾患の分類と原因</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歯周治療の進め方</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歯周疾患の診査と診断 イニシャルプレパレーション（歯周基本治療）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>口腔清掃指導 スケーリング・ルートプレーニング、薬物療法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>外科的歯周治療</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>咬合性外傷に対する治療法 メインテナンス&リハビリテーション</td> </tr> </table>			1	歯科衛生士と歯周治療 歯周組織の構造と機能	2	歯周疾患の分類と原因	3	歯周治療の進め方	4	歯周疾患の診査と診断 イニシャルプレパレーション（歯周基本治療）	5	口腔清掃指導 スケーリング・ルートプレーニング、薬物療法	6	外科的歯周治療	7	咬合性外傷に対する治療法 メインテナンス&リハビリテーション
1	歯科衛生士と歯周治療 歯周組織の構造と機能																
2	歯周疾患の分類と原因																
3	歯周治療の進め方																
4	歯周疾患の診査と診断 イニシャルプレパレーション（歯周基本治療）																
5	口腔清掃指導 スケーリング・ルートプレーニング、薬物療法																
6	外科的歯周治療																
7	咬合性外傷に対する治療法 メインテナンス&リハビリテーション																
授業形式	講義																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯周病学』																
評価の方法	筆記試験 小テスト																
学生へのメッセージ	<p>歯周治療における歯科衛生士の業務の必要性をよく理解して欲しい。 歯周疾患は歯の喪失に関わる疾患です。進行を食い止め、予防ができます。 正しく理解し、今後の保健指導に役立てましょう。</p>																

科目名	歯科補綴学																														
学年	2年・前期																														
単位	1単位	時間数	30時間																												
担当教員名	喜多 誠一 尾松 青爾																														
実務経験																															
学習目標	<p>歯科補綴治療の意義、目的を理解する。</p> <p>補綴装置の分類を理解する。</p> <p>歯科補綴治療全体の流れと技工操作との関連を理解する。</p> <p>歯科補綴治療前・治療中・装着時・装着後の各段階に応じて患者指導ができる。</p>																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>歯科補綴の概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>補綴歯科治療に関する基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>補綴装置の種類とその構造</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>補綴歯科治療における検査・診断</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>クラウン・ブリッジ治療の実際</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>有床義歯治療の実際</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>インプラント治療の実際</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>補綴歯科治療に用いられる器材</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>補綴歯科治療における歯科技工</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（1）検査・診断時の業務</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（2）治療時の業務</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（3）患者指導</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（4）器材の管理</td> </tr> </table>			1	歯科補綴の概要	2	補綴歯科治療に関する基礎知識	3	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	4	補綴装置の種類とその構造	5	補綴歯科治療における検査・診断	6	クラウン・ブリッジ治療の実際	7	有床義歯治療の実際	8	インプラント治療の実際	9	補綴歯科治療に用いられる器材	10	補綴歯科治療における歯科技工	11	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（1）検査・診断時の業務	12	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（2）治療時の業務	13	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（3）患者指導	14	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（4）器材の管理
1	歯科補綴の概要																														
2	補綴歯科治療に関する基礎知識																														
3	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療																														
4	補綴装置の種類とその構造																														
5	補綴歯科治療における検査・診断																														
6	クラウン・ブリッジ治療の実際																														
7	有床義歯治療の実際																														
8	インプラント治療の実際																														
9	補綴歯科治療に用いられる器材																														
10	補綴歯科治療における歯科技工																														
11	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（1）検査・診断時の業務																														
12	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（2）治療時の業務																														
13	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（3）患者指導																														
14	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割（4）器材の管理																														
授業形式	講義																														
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯科補綴学』																														
評価の方法	筆記試験																														
学生へのメッセージ	<p>教科書を何度も読み、理解を深めてください。</p> <p>教科書で図（写真）についても理解し、臨床実習でさらに理解を深めてください。</p>																														

科目名	矯正歯科学																
学年	3年・前期																
単位	1単位	時間数	30時間														
担当教員名	杉村 美穂																
実務経験																	
学習目標	矯正歯科学の目的を理解し、ヒトの成長発育や正常咬合をふまえて、不正咬合の分類・原因、予防、治療法を修得し、歯科衛生士の役割を学ぶ。																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション・咬合異常による生理的、心理的障害・矯正治療の目的・頭部、顎、顔面、歯列の成長発育について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>咬合について・正常咬合と咬合異常・Angle の分類・咬合異常の原因と予防</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>口腔習癖の種類と咬合異常への影響・矯正力と顎整形力 歯の移動と組織反応・歯の移動様式</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>矯正治療の診断と資料・症例分析法 矯正装置の種類・リンガルアーチ、床装置、機能別装置、マルチブラケット装置、保定装置</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>固定について・保定について</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>臨床に使用する材料と器具・矯正治療の実際・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期 外科的矯正治療</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>予防処置と口腔衛生指導・カウンセリングと患者管理・施術の準備と処置について 器具の消毒、滅菌</td> </tr> </table>			1	オリエンテーション・咬合異常による生理的、心理的障害・矯正治療の目的・頭部、顎、顔面、歯列の成長発育について	2	咬合について・正常咬合と咬合異常・Angle の分類・咬合異常の原因と予防	3	口腔習癖の種類と咬合異常への影響・矯正力と顎整形力 歯の移動と組織反応・歯の移動様式	4	矯正治療の診断と資料・症例分析法 矯正装置の種類・リンガルアーチ、床装置、機能別装置、マルチブラケット装置、保定装置	5	固定について・保定について	6	臨床に使用する材料と器具・矯正治療の実際・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期 外科的矯正治療	7	予防処置と口腔衛生指導・カウンセリングと患者管理・施術の準備と処置について 器具の消毒、滅菌
1	オリエンテーション・咬合異常による生理的、心理的障害・矯正治療の目的・頭部、顎、顔面、歯列の成長発育について																
2	咬合について・正常咬合と咬合異常・Angle の分類・咬合異常の原因と予防																
3	口腔習癖の種類と咬合異常への影響・矯正力と顎整形力 歯の移動と組織反応・歯の移動様式																
4	矯正治療の診断と資料・症例分析法 矯正装置の種類・リンガルアーチ、床装置、機能別装置、マルチブラケット装置、保定装置																
5	固定について・保定について																
6	臨床に使用する材料と器具・矯正治療の実際・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期 外科的矯正治療																
7	予防処置と口腔衛生指導・カウンセリングと患者管理・施術の準備と処置について 器具の消毒、滅菌																
授業形式	講義																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯科矯正学』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ																	

科目名	口腔外科学		
学年	2年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	村井 崇人		
実務経験			
学習目標			
口腔外科で扱う疾患を理解し、観血処置が中心となる口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。			
授業計画			
1	口腔外科と歯科衛生士・口腔疾患と内科系疾患との関係		
2	口腔領域の先天異常・変形		
3	口腔領域の損傷		
4	口腔粘膜疾患		
5	口腔領域の炎症		
6	顎関節疾患		
7	口腔領域の腫瘍・唾液腺疾患		
8	血液疾患と出血性素因		
9	抜歯術と創傷処置		
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『口腔外科学・歯科麻酔学』			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			

科目名	小児歯科学		
学年	2年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	尾上 晃代		
実務経験			
学習目標			
<p>歯科学の内であっても小児歯科学は発育期という年齢的区分による横割りの分化であり、小児のための総合的な歯科医療である。齲蝕、歯周疾患、歯列・咬合異常など口腔疾患の発症、進行時期の大半が小児期であるため、歯科衛生士の業務である予防処置、保健指導などは小児期の臨床活動や公衆衛生活動において、重要な役割をなし、その学習はとりわけ必要となる。</p>			
授業計画			
1	小児歯科概論 心身の発育		
2	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育		
3	歯の発育とその異常		
4	歯列・咬合の発育と異常		
5～6	小児の歯科疾患		
7～8	小児歯科診療		
9～10	小児歯科における診療体系		
11	小児歯科における患者との対応法		
12	障害児の歯科治療		
13～14	小児歯科診療における歯科衛生士の役割		
授業形式			
講義、パワーポイント			
教科書・参考書			
<p>歯科衛生学シリーズ『小児歯科学』 参考書 歯科衛生士、デンタルハイジーン、小児歯科学臨床など</p>			
評価の方法			
<p>解答選択方式 方法 60点を合格とする 他レポート提出</p>			
学生へのメッセージ			
<p>特長を有する小児歯科がその機能を十二分に発揮するためには、歯科衛生士の果たす役割はきわめて大きく、小児歯科における歯科衛生士の役割がいかに重要であるかを理解していただきたい。</p>			

科目名	障害者・高齢者歯科疾患論																
学年	2年・後期																
単 位	1単位	時 間 数	30時間														
担当教員名	小金澤 大亮 西連寺 央康																
実務経験																	
学習目標	<p>障害者・高齢者の歯科疾患の特徴を理解し、歯科医療での留意点を把握するとともに歯科衛生士の役割を学ぶ。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>医療従事者として知っておきたい福祉のこころ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>障害の理解とスペシャルケアの必要性</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>障害者歯科における歯科衛生士の役割</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高齢者の特性 高齢者の健康と生活</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高齢者の口腔 高齢者に多い口腔領域の疾患 高齢者と薬剤</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>障害者・高齢者の口腔保健管理</td> </tr> </table>			1	医療従事者として知っておきたい福祉のこころ	2	障害の理解とスペシャルケアの必要性	3	障害者歯科における歯科衛生士の役割	4	高齢者の特性 高齢者の健康と生活	5	高齢者の口腔 高齢者に多い口腔領域の疾患 高齢者と薬剤	6	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割	7	障害者・高齢者の口腔保健管理
1	医療従事者として知っておきたい福祉のこころ																
2	障害の理解とスペシャルケアの必要性																
3	障害者歯科における歯科衛生士の役割																
4	高齢者の特性 高齢者の健康と生活																
5	高齢者の口腔 高齢者に多い口腔領域の疾患 高齢者と薬剤																
6	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割																
7	障害者・高齢者の口腔保健管理																
授業形式	講義																
教科書・参考書	<p>歯科衛生学シリーズ『障害者歯科学』 歯科衛生学シリーズ『高齢者歯科学』</p>																
評価の方法	<p>筆記試験 評価配分：障害者歯科 50点 高齢者歯科 50点</p>																
学生へのメッセージ	<p>障害者歯科学を通して、医療従事者としてしっかりと「福祉のこころ」を学んでください。</p>																

科目名	歯科予防処置基礎		
学年	1年・後期		
単位	2単位	時間数	60時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>歯科予防処置の基礎を理解し、対象を理解するための歯科的知識や予防的歯石除去の基本的な手技を習得する。部位別スケーラー操作をマネキンで習得する。</p>			
授業計画			
1	歯科予防処置とは 歯科予防処置の内容 口腔の基礎知識		
2	歯肉の観察 探針の使用目的・使用方法・動かし方・基礎実習		
3	マネキンの取り扱い 改良執筆法把持 探針操作・ミラー操作マネキン実習		
4	スケーリングについて 手用スケーラーの種類、シックルスケーラー基本操作実習		
5	シックルスケーラー操作マネキン実習（前腕回転運動・手根関節運動）		
6～8	シックルスケーラー操作マネキン実習（上下顎前歯部）		
9～14	シックルスケーラー操作マネキン実習（上下顎臼歯部）		
15～16	シックルスケーラー操作マネキン実習（全顎）		
17	キュレットスケーラーの基本操作実習		
18～19	キュレットスケーラー操作マネキン実習（上下顎前歯部）		
20～23	キュレットスケーラー操作マネキン実習（上下顎臼歯部）		
24	キュレットスケーラー操作マネキン実習（全顎）		
25	シャープニング（シックルスケーラー）		
26	シャープニング（キュレットスケーラー）		
27	マネキン実技試験（基本操作・ポジション）		
28～29	スケーラー操作実技試験（シックルスケーラー・キュレットスケーラー）		
30	筆記試験		
授業形式			
講義・実習			
教科書・参考書			
<p>歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 歯科衛生学シリーズ『歯周病学』</p>			
評価の方法			
筆記試験 60%、実技試験 40%（基礎操作 10%、シックル・キュレット操作 30%）			
学生へのメッセージ			
<p>基本を確実にマスターするため、毎日自己学習・自己練習を行ってください。 毎時間、授業内容、実習内容が進みます。欠席することがないようにしましょう。やむを得ず実習を欠席した場合は、その分必ず自己練習を行い次の実習に臨むこと。</p>			

科目名	齶蝕予防処置		
学年	2年・後期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	上原 正典 小島 宏司 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
う蝕の原因や予防法、病状進行の阻止を図るう蝕予防処置について知識や具体的な技術を習得する。			
授業計画			
1	う蝕の基礎（脱灰と石灰化）、フッ素の基礎知識、う蝕予防処置とは		
2～3	フッ化物歯面塗布の実際、フッ化ジアンミン銀塗布、小窩裂溝填塞の基礎		
4～5	小窩裂溝填塞の実際、う蝕活動性試験		
6	う蝕予防処置法を学ぶにあたっての基礎知識		
7	フッ化物溶液（ゲル）の味の確認、綿球綿棒に含まれるよう液量の確認（実習） フッ化物洗口液の作成、洗口実習		
8	フッ化ジアンミン銀塗布、小窩裂溝填塞実習		
9	う蝕活動性試験実習		
10	小窩裂溝填塞相互実習		
11	フッ化物溶液（ゲル）歯面塗布相互実習		
12	まとめ		
13～14	集団応用について、竜王町における歯科保健活動		
15	筆記試験		
授業形式			
講義・実習			
教科書・参考書			
最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』 最新歯科衛生士教本『保健生態学』 『歯科衛生士のための齶蝕予防処置法』			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
フッ化物を安全に応用するためにフッ化物濃度を正しく計算できるよう、濃度の求め方、比例式の計算方法を復習しておきましょう。 フッ化ナトリウム（NaF）の分子量、ナトリウム（Na）・フッ素（F）の原子量 %とppmの換算方について理解しておくこと。			

科目名	歯周予防処置 I		
学年	2年・前期		
単位	2単位	時間数	60時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>情報収集のための、口腔内観察技術を習得する。</p> <p>歯周組織検査の基本的な手技であるプロービングの部位別操作を習得する。</p> <p>歯面研磨法について習得する。</p> <p>プロービングおよび歯面研磨相互実習を通じて、患者への配慮を学ぶ。</p> <p>マネキンでの手用スクレーラー操作を再確認する。</p>			
授業計画			
1	口腔内の情報収集（観察・検査）、歯周病の基礎知識		
2	プロービングの基礎知識		
3	プロービング操作方法、器具の把持、基礎実習		
4～7	プロービング操作実習（基本操作、ポジション確認）		
8～11	プロービング操作実習（チェア実習、マネキン実習）		
12	プロービング実技試験（相互実習前マネキン試験）		
13	プロービング相互実習オリエンテーション		
14～15	プロービング相互実習（下顎前歯部、上顎前歯部、下顎臼歯部、上顎臼歯部）		
16～18	シクルススクレーラー操作実習		
19～21	キュレットスクレーラー操作実習		
22	歯面研磨の目的、方法、使用器具		
23～24	歯面研磨実習（基本操作、チェア実習）		
25～26	歯面研磨相互実習オリエンテーション 歯面研磨相互実習		
27	筆記試験		
授業形式			
講義・実習			
教科書・参考書			
<p>最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』</p> <p>最新歯科衛生士教本『歯周病学 第2版』</p>			
評価の方法			
筆記試験 65%、実技試験 35%			
学生へのメッセージ			
<p>基本を確実にマスターするため、毎日自己学習・自己練習を行ってください。</p> <p>毎時間、授業内容、実習内容が変わります。欠席することがないようにしましょう。やむを得ず実習を欠席した場合は、その分必ず自己練習を行い次の実習に臨むこと。</p>			

科目名	歯周予防処置Ⅱ		
学年	2年・後期		
単位	2単位	時間数	90時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>情報収集のための口腔内写真撮影技術を習得する。</p> <p>予防的歯石除去の基本的な手技であるスケーリングの部位別操作を、相互実習で習得する。</p> <p>超音波スケーラー・エアースケーラー操作を習得する。</p> <p>PMTCの技術を習得する。</p>			
授業計画			
1～4	口腔内写真撮影実習		
5	相互実習オリエンテーション（スケーリング）		
6	シックルスケーラー・キュレットスケーラーマネキン実習（上下顎前歯部）		
7～9	下顎前歯部相互実習 フィードバック		
10～12	上顎前歯部相互実習 フィードバック		
13	シックルスケーラー・キュレットスケーラーマネキン実習（下顎臼歯部）		
14～15	下顎左側臼歯部相互実習		
16～17	下顎右側臼歯部相互実習		
18	下顎左右側臼歯部相互実習フィードバック		
19	シックルスケーラー・キュレットスケーラーマネキン実習（上顎臼歯部）		
20～21	上顎右側臼歯部相互実習		
22～23	上顎左側臼歯部相互実習		
24	上顎左右側臼歯部相互実習フィードバック		
25～26	技術試験オリエンテーション、技術試験前マネキン練習		
27	技術試験（下顎前歯部スケーリング）		
28～29	超音波スケーラー・エアースケーラー基礎知識、基本実習		
30～35	超音波スケーラー・エアースケーラーマネキン実習（下顎・上顎）		
36～39	超音波スケーラー相互実習		
30～41	エアースケーラー相互実習		
42～44	PMTCの基礎知識 PMTC マネキン実習		
45	筆記試験		
授業形式			
講義・実習			
教科書・参考書			
<p>最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』</p> <p>最新歯科衛生士教本『歯周病学 第2版』</p>			
評価の方法			
筆記試験 50%、実技試験 50%			
学生へのメッセージ			
<p>基本的な手技に不安がある場合は、マネキンでの自己練習を繰り返し行うこと。</p> <p>実習を欠席した場合は、その分必ず自己練習を行い次の実習に臨むこと。</p>			

科目名	歯周予防処置Ⅲ		
学年	3年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	野邑 浩美 北林 恵子 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>患者総合実習を行うことにより基礎実習・相互実習で習得した歯石除去技術を実際に展開、又、対象の口腔内状態の応じた保健指導を展開するための能力を養う。</p> <p>患者総合実習の対象者を歯科衛生過程の考え方にに基づき、継続管理することにより、う蝕や歯周疾患に対する予防処置や保健指導の継続的な指導管理能力を養う。</p>			
授業計画			
1	ガイダンス		
2	継続管理について		
3	患者総合実習オリエンテーション		
4	対象者のアセスメント		
5～6	グループディスカッション・文献収集・指導実施計画立案		
7	患者総合実習（1回目）		
8	患者総合実習（2回目）		
9	論文作成・発表準備		
10	症例報告		
11～12	継続管理の実際1		
13～14	継続管理の実際2		
授業形式			
講義・実習・グループワーク			
教科書・参考書			
<p>最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』</p> <p>最新歯科衛生士教本『歯周病学 第2版』</p> <p>『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』 医歯薬出版株式会社</p>			
評価の方法			
患者総合実習への取り組み・症例報告・論文により評価する。			
学生へのメッセージ			
<p>家族・知人等を患者として依頼します。協力してくださる方の確保に努力してください。</p> <p>歯周予防処置、歯科保健指導の総合的な技術・知識が必要となります。基本的手技に不安がある場合は、自己学習を繰り返し行い、歯科衛生過程について復習しておくこと。</p>			

科目名	歯科保健指導基礎																																
学年	1年・前期																																
単 位	1単位	時 間 数	30時間																														
担当教員名	学内教員																																
実務経験	○																																
学習目標	口腔保健の意義を理解し、歯科保健指導を行うための基本的な知識、技術を習得する。																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>ガイダンス、総説、歯科保健指導の意義・定義、法的位置づけ、口腔正常像</td></tr> <tr><td>2</td><td>う蝕発生に関与する因子とメカニズム、砂糖摂取量とう蝕の関係、食品のう蝕誘発性</td></tr> <tr><td>3</td><td>歯ブラシの種類、名称、歯ブラシ観察</td></tr> <tr><td>4</td><td>ブラッシング方法1</td></tr> <tr><td>5</td><td>ブラッシング方法2</td></tr> <tr><td>6</td><td>補助的清掃用具</td></tr> <tr><td>7</td><td>歯磨剤、洗口剤</td></tr> <tr><td>8</td><td>口腔衛生状態の指数について</td></tr> <tr><td>9</td><td>歯周疾患の指数について</td></tr> <tr><td>10</td><td>歯垢染色剤、介護に用いられる清掃用具</td></tr> <tr><td>11</td><td>ブラッシング圧測定器の取り扱い、歯垢染色（記録・PCR算出）実習</td></tr> <tr><td>12</td><td>100%磨き実習</td></tr> <tr><td>13</td><td>症例に応じたブラッシング指導</td></tr> <tr><td>14</td><td>ブラッシング方法チェック</td></tr> <tr><td>15</td><td>筆記試験</td></tr> </table>			1	ガイダンス、総説、歯科保健指導の意義・定義、法的位置づけ、口腔正常像	2	う蝕発生に関与する因子とメカニズム、砂糖摂取量とう蝕の関係、食品のう蝕誘発性	3	歯ブラシの種類、名称、歯ブラシ観察	4	ブラッシング方法1	5	ブラッシング方法2	6	補助的清掃用具	7	歯磨剤、洗口剤	8	口腔衛生状態の指数について	9	歯周疾患の指数について	10	歯垢染色剤、介護に用いられる清掃用具	11	ブラッシング圧測定器の取り扱い、歯垢染色（記録・PCR算出）実習	12	100%磨き実習	13	症例に応じたブラッシング指導	14	ブラッシング方法チェック	15	筆記試験
1	ガイダンス、総説、歯科保健指導の意義・定義、法的位置づけ、口腔正常像																																
2	う蝕発生に関与する因子とメカニズム、砂糖摂取量とう蝕の関係、食品のう蝕誘発性																																
3	歯ブラシの種類、名称、歯ブラシ観察																																
4	ブラッシング方法1																																
5	ブラッシング方法2																																
6	補助的清掃用具																																
7	歯磨剤、洗口剤																																
8	口腔衛生状態の指数について																																
9	歯周疾患の指数について																																
10	歯垢染色剤、介護に用いられる清掃用具																																
11	ブラッシング圧測定器の取り扱い、歯垢染色（記録・PCR算出）実習																																
12	100%磨き実習																																
13	症例に応じたブラッシング指導																																
14	ブラッシング方法チェック																																
15	筆記試験																																
授業形式	講義・実習																																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 『改定 歯ブラシ事典』学建書院																																
評価の方法	筆記試験																																
学生へのメッセージ	歯科保健指導の基礎的な知識、技術を学びます。日常自分が行っている行動は、より専門的に、実施できていないものは、習慣化できるようにしましょう。																																

科目名	歯科保健指導 I		
学年	1年・後期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
ライフステージごとの口腔保健管理計画や施設、居宅訪問指導等の口腔保健管理の場を理解し、生涯を通じた口腔保健管理が実際にできる能力を習得する。			
授業計画			
1	生涯を通じた口腔保健管理の必要性、ライフステージごとの口腔保健管理（妊産婦）		
2	ライフステージごとの口腔保健管理（新生児期・乳児期）		
3～4	ライフステージごとの口腔保健管理（幼児期）		
5	寝かせ磨き		
6	ライフステージごとの口腔保健管理（学童期）		
7	ライフステージごとの口腔保健管理（青年期・成人期）		
8	ライフステージごとの口腔保健管理（老年期）		
9	ライフステージごとの口腔保健管理（要介護高齢者・障害者）		
10	矯正治療中の歯科保健指導、口腔ケア		
11	ライフステージごとの口腔保健管理（全ステージまとめ）		
12	マネキン実習（術者磨き・フロス）		
13	実技試験		
14	相互実習（歯垢染色・術者磨き・フロス）		
15	筆記試験		
授業形式			
講義・グループワーク・実習			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』			
評価の方法			
筆記試験 80%、実技試験 20%			
学生へのメッセージ			
歯科保健指導の対象者を、ライフステージごとに理解し、それぞれの口腔保健管理ができるようになりましょう。			

科目名	歯科保健指導Ⅱ		
学年	2年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	西川 誠 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>歯科衛生過程の考え方にに基づき、対象者の情報を把握し、指導課題の抽出と解決法の策定を行うことができる。</p> <p>業務記録の作成ができる。</p> <p>指導の評価とフィードバックができる。</p>			
授業計画			
1	歯科衛生過程の概要		
2	情報収集の実際を理解する		
3	調査票の作成 (GW)		
4	医療面接 (実習)		
5	情報処理の方法を理解し、事例から情報処理を行う		
6	歯科衛生診断を理解し、事例から歯科衛生診断を行う		
7	歯科衛生計画を理解し、事例から歯科衛生計画を立案する		
8	模擬実習と1年生への歯科保健指導オリエンテーション		
9	1年生への歯科保健指導の進め方		
10	1年生への歯科保健指導実施 (アセスメント)		
11	1年生への歯科保健指導実施 (歯科衛生介入の実施)		
12	1年生への歯科保健指導実施 (歯科衛生介入の評価)		
13~14	禁煙指導		
15	筆記試験		
授業形式			
講義・演習			
教科書・参考書			
<p>最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』</p> <p>下野正基著『歯科衛生ケアプロセス』 医歯薬出版株式会社</p>			
評価の方法			
筆記試験、「1年生への歯科保健指導」実施内容の評価			
学生へのメッセージ			
患者さんの問題点を把握し、解決に導く能力をつけましょう。			

科目名	歯科保健指導Ⅲ		
学年	2年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	外部講師		
実務経験			
学習目標			
<p>地域保健の新たな概念であるヘルスプロモーションやノーマライゼーションの理論を理解し、地域保健の基本的な進め方を学ぶ。</p> <p>8020 運動や健康日本 21 など地域歯科保健に関係する健康づくり対策や保健福祉関係対策の現状について学ぶ。</p>			
授業計画			
1	地域社会と地域保健の概念		
2	地域保健の組織		
3～4	地域保健の新たな概念		
5	地域保健活動の進め方		
6～7	地域における現状把握と問題の分析		
8～9	健康づくり対策と地域歯科保健		
10～11	災害時の歯科保健		
12	地域歯科保健活動における健康教育		
13～14	地域歯科保健活動のフィールド		
15	筆記試験		
授業形式			
講義・実習			
教科書・参考書			
<p>最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』</p> <p>最新歯科衛生士教本『保健生態学』</p>			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
地域、集団を対象とした、歯科保健対策、歯科保健活動の理論と実際を学びます。			

科目名	歯科保健指導Ⅳ（演習）		
学年	2年・後期		
単 位	1単位	時 間 数	45時間
担当教員名	山本 智子 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>集団に対する歯科保健指導方法を企画立案し、必要な媒体を作成できる。</p> <p>小学校をフィールドに、歯科保健指導計画、歯科保健指導媒体作製、実践を行い、集団・グループ指導の実際を学ぶ。</p>			
授業計画			
1	ガイダンス		
2	情報収集演習		
3～4	情報収集演習		
5～7	学校保健における歯科保健指導の展開		
8～11	学習指導案作成		
12～15	媒体作成		
16～17	歯科保健指導演習		
18～21	小学校における歯科保健指導の実施 2日（評価）・実習フィードバック		
22	フィードバック全大会		
授業形式			
講義・演習			
教科書・参考書			
最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』			
評価の方法			
実技、小学校実習の実際、レポートから総合的に評価する			
学生へのメッセージ			
<p>児童の実態把握、指導者としての態度を学びます。</p> <p>集団に対する話し方の実践の場ですので、大きな声で指導できるよう努力してください。</p>			

科目名	歯科保健指導Ⅴ（含む摂食機能訓練法）														
学年	3年・前期														
単 位	1単位	時 間 数	30時間												
担当教員名	村西 加寿美 小金澤 大亮														
実務経験															
学習目標	<p>口から食べることの意義および摂食嚥下機能を理解し、歯科衛生士として支援できる口腔ケア・口腔リハビリテーション・介護予防における口腔機能の向上の実際を習得する。</p>														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1～3</td> <td>摂食嚥下機能の基礎、口から食べることの意義</td> </tr> <tr> <td>4～5</td> <td>摂食嚥下機能の正常と（病態別摂食嚥下障害）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>口腔健康管理について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>摂食嚥下の評価（スクリーニングテストや観察評価）</td> </tr> <tr> <td>8～14</td> <td>口腔衛生管理の取り組み、実際 口腔機能管理・摂食嚥下訓練について 歯科衛生ケアプランの展開 介護予防における口腔機能向上・口腔機能向上のためのレクレーション</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>筆記試験</td> </tr> </table>			1～3	摂食嚥下機能の基礎、口から食べることの意義	4～5	摂食嚥下機能の正常と（病態別摂食嚥下障害）	6	口腔健康管理について	7	摂食嚥下の評価（スクリーニングテストや観察評価）	8～14	口腔衛生管理の取り組み、実際 口腔機能管理・摂食嚥下訓練について 歯科衛生ケアプランの展開 介護予防における口腔機能向上・口腔機能向上のためのレクレーション	15	筆記試験
1～3	摂食嚥下機能の基礎、口から食べることの意義														
4～5	摂食嚥下機能の正常と（病態別摂食嚥下障害）														
6	口腔健康管理について														
7	摂食嚥下の評価（スクリーニングテストや観察評価）														
8～14	口腔衛生管理の取り組み、実際 口腔機能管理・摂食嚥下訓練について 歯科衛生ケアプランの展開 介護予防における口腔機能向上・口腔機能向上のためのレクレーション														
15	筆記試験														
授業形式	講義、実習														
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本『高齢者歯科 第2版』 『在宅訪問における口腔ケアの実際』 医歯薬出版 『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版』 医歯薬出版 『歯科衛生士のための訪問歯科ハンドブック』 医歯薬出版</p>														
評価の方法	筆記試験														
学生へのメッセージ	<p>人生の大きな楽しみである「食」に歯科衛生士としてどう関わり、支援できるかを学んでいきましょう。</p>														

科目名	栄養指導		
学年	2年・後期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	宮坂 乙美 酒井 純江		
実務経験			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療の場における栄養指導の必要性を理解する。 2. 幼児の齲蝕予防は、食習慣、食生活の指導が必要であることを理解する。 3. コミュニケーションの方法を学んで身につけられるようにする。 4. 各ライフステージ別の食生活指導ができる 			
授業計画			
1	栄養指導とは … 基本概念		
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入		
3	妊産婦期（特徴・栄養・食事摂取基準・食生活指導）		
4	乳児期（特徴・栄養・栄養摂取・食事摂取基準・食生活指導）		
5, 6	幼児期（特徴・食生活の特徴・栄養・間食・食事摂取基準・食生活指導）		
7	学齢期（特徴・食生活の特徴・栄養・食育の重要性・食事摂取基準・食生活指導）		
8, 9	青年期（特徴・食生活の特徴・栄養・食事摂取基準・食生活指導）		
10, 11	成人期（特徴・食生活の特徴・栄養・食事摂取基準・食生活指導・生活習慣病予防と栄養指導）		
12, 13	老年期（特徴・食生活の特徴・栄養・低栄養の要因・食事摂取基準・食生活指導・摂食嚥下障害と栄養）		
14	要介護高齢者（特徴・食生活の特徴・栄養・食生活指導） 障害児者（特徴・食生活の特徴・栄養）		
15	筆記試験		
授業形式			
講義・演習			
教科書・参考書			
<p>最新歯科衛生士教本『人体の構造と機能2 栄養と代謝』</p> <p>最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』</p> <p>参考書 講義の中で適宜紹介する。</p>			
評価の方法			
<p>筆記試験</p> <p>実習内容（発表、指導）評価</p>			
学生へのメッセージ			
医療従事者として、支援者の立場で、対人関係を重視し、コミュニケーションの力を身につけて欲しい。			

科目名	歯科診療補助論 I		
学年	1年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<p>歯科衛生士の三大業務のひとつである歯科診療補助の範囲と法的責任を理解する。 共同動作の意義、基本ルールがわかり、安全、確実な行動がとれる。</p>			
授業計画			
1～3	歯科診療補助総論、歯科診療室の基礎知識、共同動作の基本 バキュームテクニック、スリーウェイシリンジテクニック		
4～6	歯科用ユニットの名称と取扱い、メンテナンス		
7～9	バキューム操作、スリーウェイシリンジ操作、マネキン実習・相互実習		
10	歯科材料の取扱い（綿球、綿花、ガーゼ、ロールワッテ）		
11	医療安全		
12～14	受付対応と患者誘導実習（患者誘導、ポジション、ライティング）		
15	筆記試験		
授業形式			
講義 実習			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
歯科実習室使用の基本ルールを理解し、常に安全な行動をしてください。			

科目名	歯科診療補助論Ⅱ（演習）		
学年	2年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	45時間
担当教員名	野邑 浩美 村西 実智浩 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
共同動作の意義、基本ルールを理解したうえで、安全、確実に基本の共同動作が出来る。			
授業計画			
1～4	口腔内洗浄・バキューム操作実習		
5～6	口腔内洗浄・バキューム操作実技試験		
7	印象採得実習（アルジネート印象材・片顎・マネキン実習）		
8～9	印象採得実習（アルジネート印象材・片顎・相互実習）		
10	印象採得実習（アルジネート印象材・全顎・マネキン実習）		
11～12	印象採得実習（アルジネート印象材・全顎・相互実習）		
13～14	全顎印象採得実技試験		
15	スタディモデル作製実習（トリミング1）		
16～17	スタディモデル作製実習（トリミング2）		
18～19	スタディモデル作成実習（ソープニング）		
20	ラバーダム防湿実習（マネキン実習）		
21	ラバーダム防湿実習（相互実習）		
22	寒天・アルジネート連合印象採得相互実習		
授業形式			
実習			
教科書・参考書			
最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論 第2版』 『歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック』学建書院 『歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック』学建書院			
評価の方法			
筆記試験 実技試験			
学生へのメッセージ			
印象採得実習には、アルジネート印象材の練和とトレーへの盛り上げが必要不可欠です。 歯科材料学Ⅱでアルジネート印象材の練和技術を確実に習得してください。			

科目名	歯科診療補助論Ⅲ（演習）		
学年	2年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	45時間
担当教員名	松原 徹 森田 潤 若田 春奈 西村 優子 野邑 浩美 学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
共同動作の意義、基本ルールを理解したうえで、安全、確実に基本の共同動作が出来る。			
授業計画			
1～3	バイタルサイン測定実習		
4～5	患者介助実習（患者体験）		
6	暫間被覆冠製作実習		
7	トレーセッティング実習（コンポジットレジン修復・インレー修復・クラウン修復）		
8	トレーセッティング実習（歯髄保護・麻酔抜髄・感染根管治療）		
9	トレーセッティング実習（抜歯・根管充填・義歯修復）		
10	トレーセッティング実習		
11	トレーセッティングチェック		
12	器具の手渡しの目的、要点		
13	器具の受け渡し実習（コンポジットレジン修復・インレー修復・クラウン修復）		
14	器具の受け渡し実習（麻酔抜髄・根管充填）		
15	ブローチ綿花作成実習		
16～19	口腔外科の診療補助		
20～23	インプラントの診療補助		
授業形式			
講義 実習			
教科書・参考書			
最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論 第2版』 『臨床実習 HAND BOOK』 真木吉信著 クインテッセンス出版株式会社 『歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック』学建書院 『歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック』学建書院 『器材準備マニュアル』口腔保健協会			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
治療の術式、器具の名称、歯科衛生士の動きを理解したうえで、実習に臨むこと。 特に、トレーセッティング、器具の受渡し実習には必要不可欠の知識です。			

科目名	臨床検査																
学年	2年・後期																
単位	1単位	時間数	15時間														
担当教員名	入野 保																
実務経験																	
学習目標	臨床検査の意義・目的を理解し、患者への説明、検体の取扱い上の注意、検査成績の読み方などをよく理解し、患者に対応できる能力を養う。																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>臨床検査総論 臨床検査とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生理機能検査・尿検査</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>血液検査</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生化学検査</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>免疫血清検査</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>感染症の検査・病理検査</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>口腔領域の臨床検査、摂食・嚥下の検査</td> </tr> </table>			1	臨床検査総論 臨床検査とは	2	生理機能検査・尿検査	3	血液検査	4	生化学検査	5	免疫血清検査	6	感染症の検査・病理検査	7	口腔領域の臨床検査、摂食・嚥下の検査
1	臨床検査総論 臨床検査とは																
2	生理機能検査・尿検査																
3	血液検査																
4	生化学検査																
5	免疫血清検査																
6	感染症の検査・病理検査																
7	口腔領域の臨床検査、摂食・嚥下の検査																
授業形式	講義																
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ『臨床検査』																
評価の方法	筆記試験																
学生へのメッセージ	共に学びましょう！																

科目名	感染予防学		
学年	1年・前期		
単位	1単位	時間数	30時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
施設内感染の複雑・多様化に伴い、感染予防の重要性が強調されている。主体的に感染予防の実践が出来るよう、感染機序、感染原理を理解し実習をとおして清潔操作ができるようになる。			
授業計画			
1	感染を成立させる要因		
2	標準予防策（スタンダードプレコーション）、感染予防対策の基本		
3	個人防護具の装着、手洗い実習		
4	医療安全		
5～6	手洗い・手袋装着実習		
7	滅菌・消毒・洗浄		
8～9	消毒薬実習		
10	清潔操作の基本		
11	オイフの取り扱い		
12	各種滅菌		
13	オートクレーブの取り扱い		
14	模擬実習（相互実習の準備・片付け）		
15	筆記試験		
授業形式			
講義 実習			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄』			
評価の方法			
筆記試験 実技試験			
学生へのメッセージ			
科学的な感染防止の原理を理解し、医療従事者として「うつさない・うつされない」の院内感染予防対策を確実に身につけてほしい。			

科目名	歯科放射線学		
学年	2年・後期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	浅野 博		
実務経験			
学習目標			
<p>現在の歯科臨床において、欠かすことのできないエックス線検査を活用するために必要な知識や手技を学ぶ。</p> <p>臨床の現場で放射線を正しく安全に扱い、またその必要性和安全性を正しく患者様にお伝えすることができる。</p> <p>X線写真の読影に必要な知識を、正常像・異常像を通して学ぶ。</p>			
授業計画			
1	歯科におけるエックス線写真と画像診断 放射線とその性質		
2	口内法エックス線撮影について（撮影法と読影に必要な知識・解剖学的名称）		
3	パノラマエックス線撮影法について 画像の特徴と検査目的		
4	口外法エックス線撮影法 造影検査 CT検査 MRI US、RI検査		
5～6	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 10枚法の要点 配慮が必要な患者の撮影 感染予防		
7～8	口内法撮影実習 インスタント・半自動現像機の現像実習 10枚法マウント実習 デンタル正常像読影実習		
9～10	口内法撮影実習 デジタルレントゲンシステムの体験実習 パノラマレントゲンの読影撮影実習		
11～12	放射線の影響と防護 放射線治療と口腔管理		
13～14	エックス線写真の読影 口内法エックス線撮影実習の振り返りとまとめ		
授業形式			
講義 実習			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『歯科放射線学』 デンタルハイジーン別冊 『歯科衛生士のための X線写真パーフェクト BOOK』			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
これからの歯科衛生士には X線写真の読影とその説明は必修とされています。 臨床に出ても役に立つ知識を、講義を通してお伝えできればと考えています。			

科目名	歯科材料学 I		
学年	2年・前期		
単 位	1 単位	時 間 数	30 時間
担当教員名	岡崎 全宏		
実務経験			
学習目標			
<p>歯科材料の基本的性質、用途、取り扱い方などの基礎的知識を、科学的な視点を持って習得する。</p>			
授業計画			
1	歯科材料学総論		
2	歯科材料の基礎知識		
3	歯科材料の取り扱い（印象材・アルジネート印象材・寒天印象材・ゴム質印象材）		
4	歯科材料の取り扱い（その他の印象材・ワックス）		
5	歯科材料の取り扱い（模型および模型材料）		
6	歯科材料の取り扱い（合着および接着材）		
7	歯科補綴装置と材料（クラウン・ブリッジ）		
8	歯科材料の取り扱い（ガラスアイオノマーセメント）		
9	歯科材料の取り扱い（仮封材・暫間被覆材および仮着材）		
10	歯科材料の取り扱い（シーラント・コンポジットレジン）		
11	歯科補綴装置と材料（部分床義歯・人工歯および床用材料）		
12	歯科補綴装置と材料（鋳造・ろう付け・重合）		
13	歯科補綴装置と材料（研磨と研磨材）		
14	まとめ		
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ『歯科材料』			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
<p>この歯科材料学というのは特殊な科目です。例えば、補綴学、歯科矯正学、口腔外科学などの一般的な科目は、患者の疾病または治療法を対象にしているのに対し、歯科材料学は全ての歯科臨床において用いる材料を理解する学問のため、断片的になりがちです。また、それら一般的な科目が理解できているのが大前提となります。それらの科目の復習となり、皆様に少しでも理解を深められるような講義にしたいと思っています。</p>			

科目名	歯科材料学Ⅱ		
学年	2年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
歯科材料学Ⅰで学習した各材料の組成、性状を十分理解したうえで、確実な取り扱い方法を習得する。			
授業計画			
1	歯科材料の取り扱い実習のねらいと基本的注意事項		
2	石膏の取り扱い（基本練和法、硬化実験）		
3	合着材・接着材の取り扱い1（リン酸亜鉛セメント、カルボキシレートセメント）		
4	合着材・接着材の取り扱い2（酸化亜鉛ユージノールセメント、レジン添加型ガラスイonomerセメント）		
5	合着材・接着材の取り扱い3（ガラスアイonomerセメント、シリンジへの注入方法）		
6	仮封材・暫間被覆材および仮着材の取り扱い		
7	合着材・接着材の取り扱い4（練和チェック）		
8	修復材の取り扱い1（コンポジットレジン）		
9～11	印象材の取り扱い1, 2（アルジネート印象材 練和チェック含む）		
12	印象材の取り扱い3（寒天印象材）		
13	印象材の取り扱い4（ゴム質印象材）		
14	印象材の取り扱い5（その他の印象材）		
15	練和実技試験（セメント・アルジネート・石膏）		
授業形式			
実習			
教科書・参考書			
改訂版 『イラストと写真でわかる歯科材料の基礎』 永末書店 最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論 第2版』 歯科衛生学シリーズ『歯科材料』			
評価の方法			
実技試験			
学生へのメッセージ			
各材料についての基本的知識を理解したうえで、実習にのぞむこと。 セメント・印象材の練和については自己学習が必要不可欠です。			

科目名	救急法（救急蘇生法）																		
学年	3年・前期																		
単位	1単位	時間数	30時間																
担当教員名	日赤指導員 柳田 学																		
実務経験																			
学習目標	<p>医療従事者として必要な救急蘇生に関する知識技術を学び、歯科診療時に偶発症が発生した場合に迅速かつ的確な処置ができる能力を養う。</p>																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1～2</td> <td>手当の基本、一次救命処置（心肺蘇生法・AEDの使用法）</td> </tr> <tr> <td>3～4</td> <td>急病、けが、傷の手当</td> </tr> <tr> <td>5～6</td> <td>止血法・包帯法</td> </tr> <tr> <td>7～8</td> <td>骨折の手当（固定法）</td> </tr> <tr> <td>9～12</td> <td>搬送・救護、検定</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>医療面接、歯科診療時における偶発症とその対応①</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>異物の誤嚥・誤飲、歯科診療時における偶発症とその対応②</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>BLSの流れ</td> </tr> </table>			1～2	手当の基本、一次救命処置（心肺蘇生法・AEDの使用法）	3～4	急病、けが、傷の手当	5～6	止血法・包帯法	7～8	骨折の手当（固定法）	9～12	搬送・救護、検定	13	医療面接、歯科診療時における偶発症とその対応①	14	異物の誤嚥・誤飲、歯科診療時における偶発症とその対応②	15	BLSの流れ
1～2	手当の基本、一次救命処置（心肺蘇生法・AEDの使用法）																		
3～4	急病、けが、傷の手当																		
5～6	止血法・包帯法																		
7～8	骨折の手当（固定法）																		
9～12	搬送・救護、検定																		
13	医療面接、歯科診療時における偶発症とその対応①																		
14	異物の誤嚥・誤飲、歯科診療時における偶発症とその対応②																		
15	BLSの流れ																		
授業形式	講義・実習																		
教科書・参考書	指定教材別途有り 最新歯科衛生士教本『顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』 他 資料																		
評価の方法	筆記試験・実技試験（救急員養成講習検定） 検定に合格することで単位が修得できます																		
学生へのメッセージ																			

科目名	臨床実習 I
学年	1年・前期 後期
単位	1単位
時間数	45時間
目的	医療現場の実情を知ることにより、医療を必要とする人々の状態や医療従事者の喜びを知り、今後の学習への動機付けとする
一般目標	歯科医療の現場を早期体験することにより、歯科衛生士の業務や患者の実際を見て学び、医療人となる自覚を持ち、今後の歯科衛生士としての専門分野の知識や技術の習得に対する興味、関心を深める。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての自覚と心構えを持ち、実習に臨むことができる 2. 守秘義務を守り、患者の個人情報適切に管理できる 3. 歯科診療に携わる職種の役割や、診療に必要な環境・設備を理解できる 4. 歯科衛生士の業務内容を述べるができる 5. 医療人としての身だしなみを整えることができる 6. 診療室内の感染予防ルールを守ることができる 7. 患者の安全を配慮した誘導ができる
実習期間	1年 5月・2日間 2～3月・4日間
実習施設	歯科診療所

科目名	臨床実習Ⅱ前期・臨床実習Ⅱ後期
学年	2年・後期
単位	6単位（臨床実習Ⅱ前期3単位、臨床実習Ⅱ後期3単位）
時間数	270時間（135時間×2）
目的	医療人としての基本的な態度、および歯科診療補助技術を身につける
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病を持った対象者を理解するために、対象者に対し尊敬と労りの気持ちをもって歯科診療に参加し、医療人としての人間性や倫理観を身につける 2. 診療の目的、内容を理解し、基本的な共同動作を身につける 3. 歯科治療で使用する器具・器材・薬品の取扱い方を身につける 4. 感染予防に対する知識を習得し、安全な医療が行える態度を身につける
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習知識や技術を応用できるよう準備ができる 2. 疑問点について解決する努力ができる 3. 対象者への倫理的配慮や医療事故防止について歯科衛生士としての自覚と責任を考え行動することができる 4. 治療に必要な器具・器材を準備できる 5. 治療の手順を説明できる 6. 対象者の安全に配慮し誘導することができる 7. 治療部位に応じたバキューム操作ができる 8. 治療部位に応じたライティングができる 9. 術後の説明ができる 10. 器具・材料の受渡しができる 11. 治療に必要な材料・薬品の取り扱いができる 12. 充填・仮封用セメントが練和できる 13. 合着・接着・仮着用セメントが練和できる 14. アルジネート印象材を練和し盛り上げることができる 15. 診療室内の感染予防のルールを守ることができる
実習期間	2年 1月～3月・17日間×2クール
実習施設	県内歯科診療所

科目名	臨床実習Ⅲ病院・臨床実習Ⅲ前期・臨床実習Ⅲ中期・臨床実習Ⅲ後期
学年	3年・前期 後期
単位	10単位（病院実習1単位、前期3単位、中期3単位、後期3単位）
時間数	450時間（45時間+135時間×3）
目的	臨床実習の場において、習得した知識、技術を応用展開できる能力を養う
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病のある対象者を理解するために、対象者に対し尊敬と労りの気持ちを持って歯科診療に参加し、医療人としての人間性や倫理観を身につける 2. 各症例において歯科診療補助技術を展開するために、既習知識を理解し基本的な技能を身につける 3. 各症例において歯科予防処置技術を展開するために、既習知識を理解し基本的な技能を学ぶ 4. 各症例において歯科保健指導技術を展開するために、既習知識を理解し基本的な技能を身につける 5. 総合病院歯科口腔外科において、病院における感染予防、周術期における口腔機能管理、口腔外科手術、摂食嚥下機能障害について学ぶ
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習知識や技術を応用できるよう準備ができる 2. 疑問点について解決する努力ができる 3. 対象者に対し尊敬と労りの気持ちを持って接することができる 4. 対象者への倫理的配慮や医療事故防止について自覚と責任を考え行動することができる 5. 治療に必要な器具・器材を準備できる 6. 治療の手順を説明できる 7. 材料・薬品の使用目的と性質を関連付けられる 8. 各症例に応じた歯科診療補助ができる 9. 印象採得ができる 10. 各種検査の目的と技能を説明できる 11. 歯面の付着物及び沈着物除去の目的と技能を説明できる 12. PMTC・PTC・歯面研磨の目的と技能を説明できる 13. う蝕予防処置の目的と技能を説明できる 14. 口腔観察を行い、情報を収集できる 15. 対象者の状況にあった口腔清掃法方法が理解できる 16. 歯科保健指導ができる 17. 総合病院歯科口腔外科における感染予防対策を説明できる 18. 周術期における口腔健康管理の流れと内容を理解する 19. 病院で行われる口腔外科手術の症例と術前・術中・術後の管理について理解する 20. 摂食嚥下機能の評価と摂食嚥下訓練について理解する
実習期間	3年 8月～12月 総合病院：6日間 歯科診療所：17日間×3クール
実習施設	総合病院歯科口腔外科 歯科診療所

科目名	臨地実習 I (対象理解)
学年	2年・前期
単位	2単位
時間数	90時間
目的	対象者の生活や環境を知ることにより、温かい心情や豊かな人間性を育み、歯科衛生士としての基礎的態度を養う
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園児の保育活動に参加するとともに、成長・発達段階および日常生活行動について理解する 2. 介護老人保健施設・介護老人福祉施設での生活を体験的に学習するとともに、高齢者の日常生活行動について理解する 3. 障がい児(者)の学校生活を体験的に学習するとともに、障がいの種別と、その特徴的な症状を理解する
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 発達段階による、基本的な生活習慣獲得の違いが述べられる ② 保育園の保育活動が説明できる ③ 園児とコミュニケーションをとることができる ④ 目線を合わせて話しかけることができる。 ⑤ 必要な場面で適切な援助ができる 2. 介護老人施設実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 施設の特徴を説明できる ② 関係職種の役割を述べられる ③ 高齢者とコミュニケーションをとることができる ④ 行動する際に、安全を確認し、高齢者に声かけをすることができる ⑤ 高齢者に対して尊敬の念を持ち接することができる ⑥ 高齢者に対して受容的共感的に接することができる 3. 養護学校実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 障がいの種別と、その特徴的な症状を述べられる ② 養護学校の学習内容が説明できる ③ 障がい児(者)とコミュニケーションを取ることができる ④ 動作の際に、常に声かけをすることができる ⑤ 目線を合わせて話しかけることができる
実習期間	2年 5月～6月・12日間(4日間×3クール)
実習施設	保育園 介護老人保健施設 介護老人福祉施設 養護学校

科目名	臨地実習Ⅱ（対象別歯科保健教育）
学年	3年・前期 後期
単位	2単位
時間数	90時間
目的	母子・高齢者・障がい児（者）の対象に応じた歯科保健指導が実践できる能力を身につける
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 地域の母子歯科保健指導体系を理解し、その実践を学ぶ 2. 高齢者の口腔ケア・歯科保健指導での歯科衛生士の役割を学ぶ 3. 心身障がい児（者）の歯科保健医療の意義を学ぶ
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 母子歯科保健指導実習 <ul style="list-style-type: none"> ①1歳9ヶ月児健診での歯科保健教育ができる ②2歳6ヶ月児健診での歯科保健教育ができる ③10ヶ月児健診の健診の流れと指導内容を見て学ぶ ④3歳6ヶ月児健診での歯科保健教育を見て学ぶ ⑤歯科検診・フッ化物塗布の補助ができる 2. 高齢者の口腔ケアおよび歯科保健指導実習 <ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の口腔ケアの実施において他職種との関わりを述べることができる ②対象に応じた歯科保健指導の方法を学ぶ 3. 心身障がい児（者）歯科保健指導及び歯科診療補助実習 <ul style="list-style-type: none"> ①障がい児（者）や家族の人権・人格を尊重した対応ができる ②障がい児（者）の歯科診療時の留意点ができる ③障がい児（者）の状況に応じた対応ができる ④障がいの状況に応じた歯科保健指導ができる
実習期間	3年 6月～12月・12日間 (母子—3日間、高齢者—5日間 障がい児（者）—4日間)
実習施設	歯科保健センター 口腔衛生センター 養護学校 作業所 高齢者福祉施設

選 択 必 修 分 野

教育内容	授業科目	単位	時間数
	看護概論	1	15
	手話	1	15
	カウンセリング	1	15
	コミュニケーション論	1	15
	介護技術	1	30
	有病者歯科医療	1	30
	研究	1	45
合 計		7	165

科目名	看護概論		
学年	1年・後期		
単位	1単位	時間数	15時間
担当教員名	学内教員		
実務経験	○		
学習目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象とは、さまざまな健康水準にあるすべての人間であることが理解できる。 ・健康とは個人の身体的・精神的・社会的な調和を考慮した概念であることが理解できる。 ・協働する看護（師）について学び、活動の拡大、チーム医療における歯科衛生士の役割が認識できる 			
授業計画			
1	看護の概念（看護論からみた人間・健康・社会・看護とは）		
2	医療・看護を取り巻く環境		
3	倫理と法（医療安全・守秘義務等）		
4	地域包括ケア（チーム医療）における看護師、歯科衛生士の役割		
5	ケアにおけるコミュニケーション		
授業形式			
講義・グループワーク			
教科書・参考書			
テキスト 指定なし 資料配付			
評価の方法			
筆記試験・レポート			
学生へのメッセージ			
<p>何故“看護概論”を学ぶのか、疑問を持つ人も少なくないと思います。歯科衛生士をめざす上で“地域包括ケア”における医療チームの一員として“看護”について学び、効果的な連携・協力ができる歯科衛生士に育てていただくための学習です。</p>			

科目名	手話																
学年	1年・後期																
単位	1単位	時間数	15時間														
担当教員名	萩原 さつき 中西 久美子																
実務経験																	
学習目標	<p>初歩的な手話表現技術を身につけることによって、手話によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。これらの学習を通して、手話という言語の特徴について知り、同時に聴覚障害者の実情について考察する。</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>講義「聴覚障害とは」・「コミュニケーションの方法」</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実技「身振りによる伝達・手話による挨拶」</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>実技「自己紹介 名前、数字、家族、指文字」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>講義「聴覚障害者の暮らし」・「手話の基礎知識」</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>実技「疑問詞を使った会話」・「病院に関する単語と会話」</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>実技「病院に関する単語と会話」</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>実技「まとめ」「実技到達度確認」</td> </tr> </table>			1	講義「聴覚障害とは」・「コミュニケーションの方法」	2	実技「身振りによる伝達・手話による挨拶」	3	実技「自己紹介 名前、数字、家族、指文字」	4	講義「聴覚障害者の暮らし」・「手話の基礎知識」	5	実技「疑問詞を使った会話」・「病院に関する単語と会話」	6	実技「病院に関する単語と会話」	7	実技「まとめ」「実技到達度確認」
1	講義「聴覚障害とは」・「コミュニケーションの方法」																
2	実技「身振りによる伝達・手話による挨拶」																
3	実技「自己紹介 名前、数字、家族、指文字」																
4	講義「聴覚障害者の暮らし」・「手話の基礎知識」																
5	実技「疑問詞を使った会話」・「病院に関する単語と会話」																
6	実技「病院に関する単語と会話」																
7	実技「まとめ」「実技到達度確認」																
授業形式	講義・実技																
教科書・参考書	<p>テキスト 『手話で必見！医療のすべて〈外来編〉』 全日本ろうあ連盟出版局 参考資料 DVDで楽しく学べるはじめて出会う手話 一般財団法人全日本ろうあ連盟</p>																
評価の方法	<p>授業の目的とねらいが理解できているかを判断して、以下のように評価する。 授業態度・手話実技、筆記試験・レポートを総合的に判断し、評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>コミュニケーションは人間関係を築く上で、非常に重要な手段です。 『手話』を学ぶことにより、コミュニケーションの意味を深く考える姿勢を大切にしてほしい。</p>																

科目名	カウンセリング		
学年	3年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	15時間
担当教員名	藤井 久美子		
実務経験			
学習目標			
<p>援助者の態度やコミュニケーション能力、主なカウンセリング方法などの専門的基礎知識を身につけ、医療場面および実生活の場面で活用できるようになることを目的とする。</p>			
授業計画			
1	カウンセリングとは		
2	援助者となるために必要な自己理解①		
3	援助者となるために必要な自己理解②		
4	カウンセリングの基本スキル① リスニング		
5	カウンセリングの基本スキル② 自己イメージ連想法		
6	カウンセリングの基本スキル③ 行動目標化支援		
7	医療場面におけるコミュニケーションの実際		
授業形式			
講義・演習			
教科書・参考書			
配布資料			
評価の方法			
<p>レポート（70％）・課題（30％） レポート課題：「授業を通して学んだカウンセリングとは。援助者としての自分傾向と課題」 学校規定の用紙 1200～1600字程度</p>			
学生へのメッセージ			
<p>カウンセリングの基本的なスキルが日常で使えるようになると自己理解、他者理解が深まります。医療従事者として必要なスキルですので積極的に学んでください。</p>			

科目名	コミュニケーション論																
学年	1年・前期																
単 位	1単位	時 間 数	15時間														
担当教員名	藤井 久美子																
実務経験																	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関係を構築するために必要なコミュニケーションの意義がわかる ・基本的なコミュニケーションのスキルを理解し実践できる。 ・医療者として高めるべきコミュニケーションの課題に気づくことができる。 																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>援助者として必要なコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>リスニング①：聴く姿勢と態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リスニング②：気持ちや要求を聴く</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>パーソナリティと行動特性から見た自己理解</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>相手も自分も大切にするアサーティブな自己表現</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自己表現① プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自己表現② プレゼンテーション</td> </tr> </table>			1	援助者として必要なコミュニケーション	2	リスニング①：聴く姿勢と態度	3	リスニング②：気持ちや要求を聴く	4	パーソナリティと行動特性から見た自己理解	5	相手も自分も大切にするアサーティブな自己表現	6	自己表現① プレゼンテーション	7	自己表現② プレゼンテーション
1	援助者として必要なコミュニケーション																
2	リスニング①：聴く姿勢と態度																
3	リスニング②：気持ちや要求を聴く																
4	パーソナリティと行動特性から見た自己理解																
5	相手も自分も大切にするアサーティブな自己表現																
6	自己表現① プレゼンテーション																
7	自己表現② プレゼンテーション																
授業形式	講義・演習																
教科書・参考書	配付資料																
評価の方法	<p>レポート（70％）・課題（30％）</p> <p>レポート課題：「授業を通して学んだコミュニケーションとは。自分のコミュニケーションの傾向と課題」</p> <p>学校規定の用紙 1200～1600字程度</p>																
学生へのメッセージ	<p>お互いの気持ちを表現し理解するコミュニケーションスキルは、人間関係の基礎となります。コミュニケーションの意味を深く捉え楽しんで学んでください。</p>																

科目名	介護技術		
学年	3年・前期		
単 位	1単位	時 間 数	30時間
担当教員名	袖森 純子 西村 優子		
実務経験			
学習目標			
介護の考え方や介護技術を学ぶことにより、安全、安楽、効果的なケアを実施できる能力を習得する。			
授業計画			
1	認知症について ケアの歴史		
2	認知症の症状		
3	行動心理の理解、病気の理解、人の理解		
4	事例紹介・具体的ケア		
5	介護家族の理解		
6～7	若年性認知症・パーソンセンタードケアについて		
8～9	介護技術 食生活の特徴、誤嚥防止のための観察ポイント、安全な座位等の実習		
10～11	介護技術 移乗・移動の特徴、介助ポイント、起き上がり介助、体位変換、車椅子への移乗実習		
12	介護技術 吸引について、口腔内吸引、鼻腔内吸引実習		
13	介護技術 療養場の環境、ベッドメイキング実習		
14	介護技術 ポジショニングについて、褥瘡について、排泄ケアについて		
授業形式			
講義および実習			
教科書・参考書			
『認知症の人々の看護』 配布資料による			
評価の方法			
筆記試験			
学生へのメッセージ			

科目名	有病者歯科医療																																																										
学年	3年・前期																																																										
単 位	1単位	時 間 数	30時間																																																								
担当教員名	木村 里咲 西山 祐子																																																										
実務経験																																																											
学習目標	<p>有病患者の全体像を把握し適時適切な専門性を発揮した診療補助を遂行するために、有病者の病態、治療や指導上の注意事項などを理解する。</p> <p>また、周術期口腔機能管理の目的と意義を学び、周術期における歯科衛生士の役割と専門的な口腔ケアの実際を理解する。</p>																																																										
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>有病者歯科医療総論</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>全身麻酔法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>精神鎮静法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>局所麻酔と局所麻酔による偶発症</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>循環器系疾患</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>呼吸器系疾患・代謝性疾患</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>その他の基礎疾患</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>有病者歯科医療と歯科衛生士</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>全身疾患①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>全身疾患②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>がん治療における歯科衛生士の役割</td> <td>手術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>がん治療における歯科衛生士の役割</td> <td>化学療法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>がん治療における歯科衛生士の役割</td> <td>放射線療法</td> <td>緩和ケア</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>歯科衛生士が行う口腔ケアの実際</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			1	有病者歯科医療総論			2	全身麻酔法			3	精神鎮静法			4	局所麻酔と局所麻酔による偶発症			5	循環器系疾患			6	呼吸器系疾患・代謝性疾患			7	その他の基礎疾患			8	有病者歯科医療と歯科衛生士			9	全身疾患①			10	全身疾患②			11	がん治療における歯科衛生士の役割	手術		12	がん治療における歯科衛生士の役割	化学療法		13	がん治療における歯科衛生士の役割	放射線療法	緩和ケア	14	歯科衛生士が行う口腔ケアの実際		
1	有病者歯科医療総論																																																										
2	全身麻酔法																																																										
3	精神鎮静法																																																										
4	局所麻酔と局所麻酔による偶発症																																																										
5	循環器系疾患																																																										
6	呼吸器系疾患・代謝性疾患																																																										
7	その他の基礎疾患																																																										
8	有病者歯科医療と歯科衛生士																																																										
9	全身疾患①																																																										
10	全身疾患②																																																										
11	がん治療における歯科衛生士の役割	手術																																																									
12	がん治療における歯科衛生士の役割	化学療法																																																									
13	がん治療における歯科衛生士の役割	放射線療法	緩和ケア																																																								
14	歯科衛生士が行う口腔ケアの実際																																																										
授業形式	講義																																																										
教科書・参考書	<p>最新歯科衛生士教本『顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』</p> <p>『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』 医歯薬出版</p>																																																										
評価の方法	筆記試験																																																										
学生へのメッセージ																																																											

科目名	研究		
学年	3年・前期		
単位	1単位	時間数	45時間
担当教員名	家高 裕史		
実務経験			
学習目標			
医療職にとっての研究の必要性や重要性を理解し、様々な研究手法や科学的思考のプロセスを学び、研究計画書を作成することで、研究の基礎を理解する。			
授業計画			
1	研究の意義 医療職にとっての必要性・重要性		
2	研究の進め方の分類		
3	研究の実際 研究論文を読む 演習		
4	文献の活用 文献検索の方法 演習		
5	研究倫理について		
6	研究テーマの決め方		
7	研究計画の立て方		
8	資料・データの整理について 演習		
9～11	研究計画書の作成・発表		
授業形式			
講義・演習			
教科書・参考書			
教材は、授業中に適宜配布する 参考書：歯科衛生研究の進め方・論文の書き方（医歯薬出版）			
評価の方法			
グループワークへの参加、レポート提出およびプレゼンテーション			
学生へのメッセージ			